

|                  |   |
|------------------|---|
| <b>Title</b>     | 聖学院大学総合研究所活動報告（2003年～2005年）   |
| <b>Author(s)</b> | 聖学院大学総合研究所  |
| <b>Citation</b>  | 聖学院大学総合研究所, No.34 別冊, 2006.2 : 7-91   |
| <b>URL</b>       | <a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4303">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4303</a> |
| <b>Rights</b>    |   |

※ 「VI.カウンセリング研究センター, グリーフケア・ルーム」 p86-91は  
文責者の依頼により未登録です。

※ p 45-46 「③非行臨床研究」の2003、2004年度の一部は文責者の依頼  
により削除しています。



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

### III

## 聖学院大学総合研究所活動報告

(2003年～2005年)

|     |                                      |    |
|-----|--------------------------------------|----|
| I   | 総合研究所の設置理念と組織                        | 7  |
|     | (1) 聖学院大学総合研究所の設置理念と沿革               |    |
|     | (2) 教員組織                             |    |
| II  | 研究活動と研究成果公開                          | 15 |
|     | (1) シンポジウム・セミナー・講演会                  |    |
|     | (2) 共同研究プロジェクト                       |    |
|     | (3) 「聖学院大学総合研究所紀要」27号～35号目次          |    |
|     | (4) 「聖学院大学総合研究所 Newsletter」13巻～15巻目次 |    |
|     | (5) 研究報告書・年報の発行                      |    |
| III | ランゲージ・インスティテュート                      | 74 |
| IV  | 聖学院大学出版会                             | 79 |
| V   | 自治体リーダー養成講座, 聖学院ポリシー・カレッジ            | 81 |
| VI  | カウンセリング研究センター, グリーフケア・ルーム            | 86 |

## I 総合研究所の設置理念と組織

### (1) 総合研究所設置の理念と沿革

聖学院大学総合研究所は1988年4月の大学設置とともに、各学問領域の諸問題を学問的に研究・深化させ、諸学問間の対話を深め総合することをめざして創設された。

今日の学問的状况の中で、研究領域として、「政治経済」「科学と教育」「キリスト教と文化」「語学」「日本・アングロアメリカ」「組織神学」「日韓現代史」「カウンセリング」の8つを掲げ、それぞれの領域に研究センターを設置している。研究センターの中に「現代都市研究室」、「英米研究室」、「日本研究室」、「ピューリタニズム研究室」、「人間学研究室」が設置され、共同研究プロジェクトの推進、資料の収集、蓄積などにあたっている。

1991年には、研究成果を出版物で公開するために、「聖学院大学出版会」が設置された。

1996年には聖学院大学大学院政治政策学研究科が設置されたが、総合研究所はその研究部門に位置づけられた。現在も大学院の研究活動を推進する役割を果たしている。一例を挙げれば、「政治経済研究センター」では、大学院政治政策学研究科と共同で、埼玉県重点施策を政策企画・実施・評価の観点から研究する「埼玉地域政策研究」を開講している。2004年度から埼玉県の自治体職員、地方議会議員を対象にした「聖学院ポリシー・カレッジ」を大学院講座として開催している。また、大学院には1999年度に「アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科」が開設されたが、「日本・アングロアメリカ研究センター」では、この研究科と共同で、海外から著名な学者を招聘し、大学院授業・研究会を開催している。

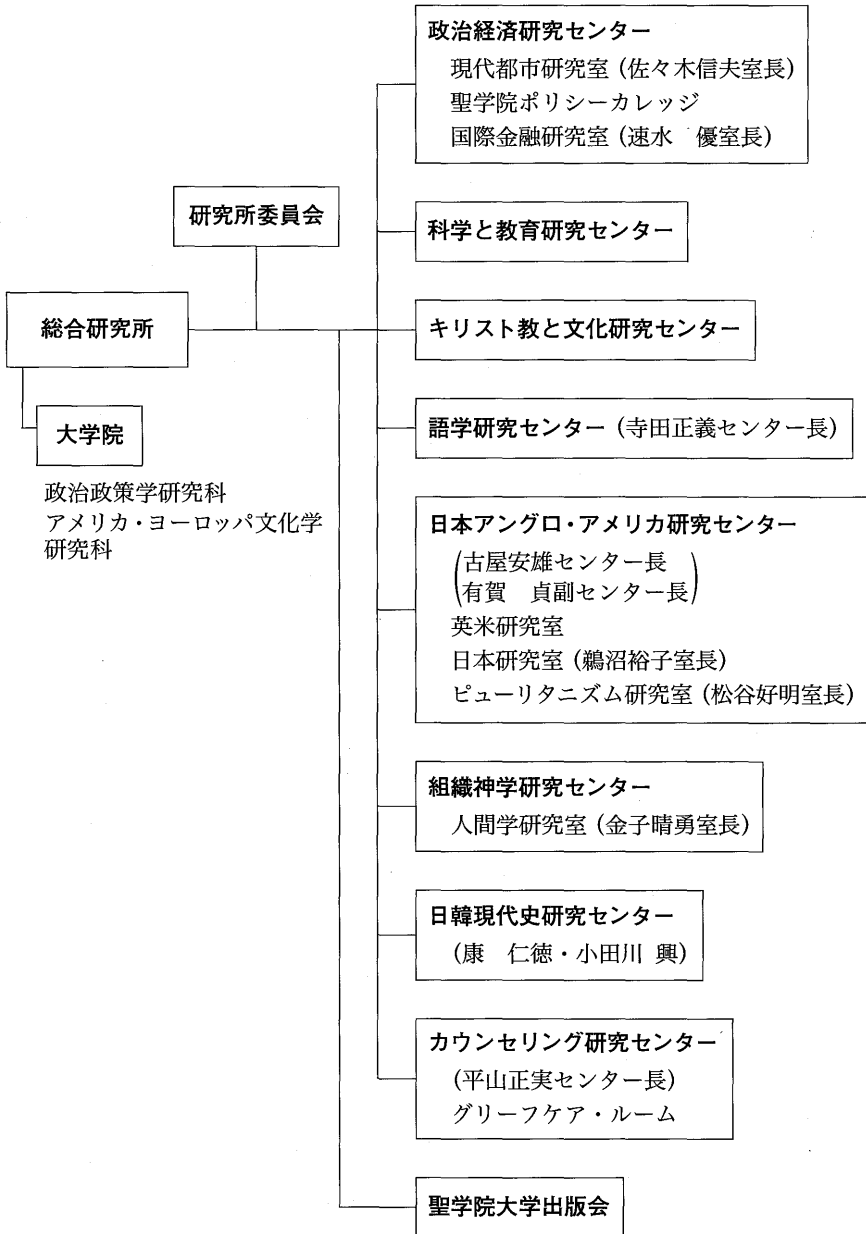
2002年度には、韓国の翰林大学校日本学研究所と共同で「日韓現代史研究センター」を設立し、朝鮮半島の民衆がどのような経験をし、戦後の国家像を

どのように描いていたのかを調査・研究している。また日韓現代史に関する重要資料の収集にあたっている。

2003年度には「カウンセリング研究センター」を設置し、キリスト教カウンセリングの事例研究、心理相談「グリーフケア・ルーム」を開始した。

2005年度より、聖学院大学の国際金融、経済の研究者が共同で研究し、研究成果を発表する場として、聖学院大学総合研究所政治経済研究センターに、速水優聖学院大学全学教授を室長、眞野輝彦総合研究所特任教授を室長補佐とした「国際金融研究室」（室長、速水優全学教授、副室長、眞野輝彦特任教授）を設け、研究活動を進めている。

# 聖学院大学総合研究所の組織



## (2) 総合研究所組織

### 総合研究所委員

- 所 長 大木 英夫 (理事長, 院長, 1988年4月1日～現在)
- 副所長 飯坂 良明 (大学学長, 大学院長, 2000年4月1日～2003年11月)
- 副所長 阿久戸光晴 (大学学長, 1995年4月1日～現在)
- 委 員 近藤 勝彦 (宗教センター所長, 1988年4月1日～2004年3月31日)
- 委 員 小倉 義明 (キリスト教センター所長, 2004年4月1日～現在)
- 委 員 阿部 洋治 (人間福祉学部チャプレン, 1988年4月～現在)
- 委 員 菊地 順 (人文学部チャプレン, 1988年4月～現在)
- 委 員 佐野 正子 (政治経済学部チャプレン, 2005年4月1日～現在)
- 委 員 相澤 一 (政治経済学部副チャプレン, 2004年4月1日～2005年3月31日)
- 委 員 大木 雅夫 (政治政策学研究科長, 2004年4月1日～現在)
- 委 員 古屋 安雄 (アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科長, 2001年4月1日～現在)
- 委 員 標 宣男 (政治経済学部長, 2002年4月1日～現在)
- 委 員 寺田 正義 (人文学部長, 2000年4月1日～現在)
- 委 員 中村 磐男 (人間福祉学部長, 2004年4月1日～現在)
- 委 員 ウィリアム・G・クレーラ (国際センター所長, 1988年4月1日～現在)

### 所 員

聖学院大学の教員は, 全員総合研究所の所員となる(総合研究所規程第7条)。

### 研究所教員

- 全学教授 速水 優 (大学院その他, 国際金融研究室, 2003年4月1日～現在)
- 教 授 有賀 貞 (大学院, 日本・アングロアメリカ研究センター,

2001年4月1日～現在)

- 教授 金子 晴勇 (大学院, 人間学研究室, 2002年4月1日～現在)
- 教授 郡司 篤晃 (大学院, 1998年4月1日～現在)
- 教授 西川大一郎 (2004年4月1日～2004年11月30日)
- 特任教授 眞野 輝彦 (政治経済研究センター国際金融研究室, 2005年4月1日～現在)
- 特任教授 鶴沼 裕子 (大学院, 日本研究室, 2005年4月1日～現在)
- 助教授 エバート・D・オズバーン (SEP, 語学教育研究, 1999年4月1日～2005年3月31日)
- 助教授 森田美千代 (大学院, イギリス・アメリカ研究, 2000年4月1日～現在)
- 助教授 大澤 麦 (2002年4月1日～2005年3月31日, 現在, 首都大学東京教授)
- 助教授 深井 智朗 (組織神学研究センター, 大学院, 2002年4月1日～2006年3月31日)
- 特任助教授 松谷 好明 (ピューリタニズム研究室, 図書館, 学部, 2002年10月1日～現在)
- 助教授 藤原 淳賀 (組織神学研究センター, 学部, 2004年4月1日～現在)
- 助教授 メヘラン・サベット (SLI所長, SEEP, SEP, 語学教育研究, 2000年4月1日～2006年3月31日)
- 助教授 ディーン・サザデン (SLI副所長, SEP, 語学教育研究, 大学院, 2001年4月1日～現在)
- 専任講師 藤掛 明 (カウンセリング研究センター, 2003年4月1日～現在)
- 専任講師 ブライアン・アシュレー (SLI, SEP, 1990年1月1日～2004年3月31日)
- 専任講師 ポール・土戸・シュー (2003年4月1日～2004年3月31日)
- 特任講師 菅原 啓州 (児童学研究, 学部, 2003年4月1日～現在)
- 特任講師 ブライアン・バード (SLI児童英語, 語学教育研究, 2003年4月1日～現在)
- 特任講師 藤原真知子 (SLI児童英語, 語学教育研究, 2003年4月1日～

現在)

助手 竹淵 香織 (カウンセリング研究センター, 学生相談室, 2005  
年4月1日～現在)

### 客員教授

恒松 制治 (都市経営研究, 大学院, 1996年1月～2005年3月31日)

佐々木信夫 (現代都市研究室, 都市経営研究, 大学院, 1994年4月1日～  
現在)

中邨 章 (現代都市研究室, 都市経営研究, 大学院, 2000年1月～2006  
年3月31日)

岩島 久夫 (グローバリゼーション研究, 日韓現代史研究, 大学院, 2001  
年4月1日～現在)

田中 浩 (グローバリゼーション研究, ピューリタニズム研究, 大学院,  
2003年4月1日～現在)

山形 和美 (大学院, 2003年4月1日～現在)

田中 豊治 (グローバリゼーション研究, 大学院, 1996年4月1日～現在)

西田 善夫 (スポーツ社会学, 学部, 1996年4月1日～現在)

濱田 辰雄 (日本研究, 1997年4月1日～2005年3月31日)

小林 良彰 (現代都市研究センター, 大学院, 2000年4月1日～現在)

康 仁徳 (日韓現代史研究センター, 大学院, 1999年7月1日～現在)

池 明観 (在外, 日韓現代史研究センター, 1996年4月1日～現在)

小田川 興 (日韓現代史研究センター, 学部, 2003年4月1日～現在)

平山 正実 (カウンセリング研究センター, 大学院, 2002年10月1日～  
2006年3月31日)

柏木 昭 (大学院, 2004年4月1日～2006年3月31日)

J. David Reid (在外)

### 特任研究員

高 萬松 (2005年4月1日～現在)

潮 匡人 (政治経済研究センター, 2005年4月1日～現在)



## SLI 講師

Seigakuin Language Institute は 2004 年 4 月 1 日から聖学院国際センターの組織に移動した。したがって総合研究所の組織としての報告は 2003 年 4 月 1 日から 2004 年 3 月 31 日の期間となる。

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 所 長    | メヘラン・サベット              |
| 副所長    | ディーン・サザデン              |
| 講 師    | ブライアン・バード              |
| 講 師    | ブライアン・アシュレー            |
| 講 師    | 藤原真知子 (児童英語担当)         |
| 委託契約講師 | クレイグ・カール (SLI, SEP)    |
| 委託契約講師 | ジョン・プロフェルド-ワトソン (SLI)  |
| 非常勤講師  | カーリン・エアハート (幼稚園, 小学校)  |
| 非常勤講師  | ジョン・クラグストン (小学校)       |
| 非常勤講師  | ケリー・スティーヴンス (幼稚園, 小学校) |
| 委託契約講師 | パシー・オリビエ (幼稚園, 小学校)    |
| 委託契約講師 | スティーブ・コノリー (小学校)       |
| 非常勤講師  | スティーブン・ボイド (幼稚園)       |
| 非常勤講師  | ロバート・ディム (SLI)         |
| 非常勤講師  | ロベルト・ラビーニ (SLI)        |

## Research Assistant: RA

- 佐藤 貴史 (グローバリゼーション研究, 日本研究, EU 研究, 2002 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日)
- 猪野 正道 (カウンセリング研究, 2004 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日)
- 森島 豊 (ニーバー, 日韓, ピューリタニズム, 2004 年 4 月 1 日～現在)
- 岩切 博史 (都市経営, 社会保障, 地域, 2004 年 4 月 1 日～現在)
- 嶋田 陽子 (グローバリゼーション, イギリス・アメリカ研究, 英語教育, 2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日)
- 小林 雅博 (日韓研究, 語学研究, 2005 年 4 月 1 日～現在)
- 柳田 洋夫 (公共神学研究, グローバリゼーション, ピューリタニズム, 2005 年 4 月 1 日～現在)

中村 準一 (国際金融研究, 都市経営研究, 2005年4月1日～現在)

松本 周 (公共神学研究, 日本研究, EU研究, 2005年4月1日～現在)

木村 美里 (語学教育研究, 日本研究, 児童学研究, 2005年4月1日～現在)

#### 研究技術者

小林 雅博 (日韓研究, イギリス・アメリカ研究, 語学研究, 2004年4月1日～2005年3月31日)

村上 純子 (カウンセリング研究, 2005年4月1日～現在)

## II 研究活動と研究成果公開

### (1) シンポジウム・セミナー・講演会

総合研究所では、研究活動の公開と内外の研究者との学術交流を深めるという目的から、毎年、シンポジウム、セミナー、講演会などの学術研究集会を開催している。2003年度から2005年度にかけて下記のシンポジウムなどを主催した。

1. 2003年4月18日 学術シンポジウム「政令指定都市の誕生と今後の課題——自治区への可能性——」（会場＝大宮ソニックシティ小ホール）【参加者167名】

基調講演： 森田 朗（東京大学大学院教授）

都市提言： 佐々木信夫（聖学院大学総合研究所客員教授）

パネリスト：青木 信之（埼玉県副知事）

市川 宏雄（明治大学大学院教授）

金井 利之（東京大学大学院助教授）

永井多恵子（世田谷文化生活情報センター（劇場＋生活工房）館長）

コーディネータ：佐々木信夫

2. 2003年4月23日聖学院大学講演会「リーダーが脱線するとき——職場のハラスメントから、家庭崩壊まで、中年期危機の諸相を考える——」（大宮ソニックシティ601会議室）【参加者28名】

講演者： 平山 正美（聖学院大学総合研究所客員教授）

藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）

3. 2003年11月1日 聖学院大学講演会「盧武鉉政権の対北政策展望——6カ国会談のゆくえと朝鮮半島情勢——」（池袋サンシャインシティ文化会館）

701室)【参加者70名】

講演者： 康 仁徳 (元大韓民国統一部長官, 聖学院大学総合研究所客員教授)

司会・コメンテータ：小田川 興 (元朝日新聞編集委員, 聖学院大学総合研究所客員教授)

4. 2004年2月14日 国際シンポジウム「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題と日中韓の役割——」(都市センターホテル6階601会議室)【参加者95名】

基調講演： 朱 建栄 (東洋学園大学教授)

パネリスト：康 仁徳 (元大韓民国統一部長官, 聖学院大学総合研究所客員教授)

加藤 洋一 (朝日新聞社外報部次長)

司会： 小田川 興 (元朝日新聞編集委員, 聖学院大学総合研究所客員教授)

5. 2004年4月23日 聖学院大学都市経営シンポジウム「官から民へ——協同参画とまちづくりを考える——」(産学交流プラザ(彩の国8番館セミナールーム))【参加者97名】

基調講演：「協同型のまちづくり——市民と行政の新しい関係」

中井 検裕 (東京工業大学大学院社会理工学研究科教授・社会工学)

事例報告：「目黒区の協同参画システムの試み」

川島 輝幸 (目黒区企画経営部部長)

パネリスト：細野 助博 (中央大学総合政策学部兼大学院総合政策研究科教授)

平 修久 (聖学院大学政治経済学部教授)

6. 2004年5月14日 聖学院大学シンポジウム「キリスト者と親子関係」(産学交流プラザ(彩の国8番館セミナールーム))【参加者72名】

パネリスト：佐藤 誠 (私立学校スクールカウンセラー, 東京神学大学非常勤講師)

吉岡 光人 (日本基督教団 吉祥寺教会牧師)  
平山 正実 (聖学院大学総合研究所客員教授, 東洋英和  
女学院大学人間科学部教授)  
藤掛 明 (聖学院大学総合研究所専任講師)

7. 2004年6月19日 聖学院大学講演会「アメリカの対北朝鮮政策」(池袋メ  
トロポリタンプラザ12階会議室)【参加者107名】

講演:「アメリカの対北朝鮮政策」

ヤン・C・キム (ジョージ・ワシントン大学名誉教授)

コメンテータ: 康 仁徳 (元大韓民國統一部長官, 聖学院大学総合  
研究所客員教授)

コーディネータ: 小田川 興 (元朝日新聞編集委員, 聖学院大学総合  
研究所客員教授)

8. 2004年10月1日 聖学院大学講演会「キリスト者と人間関係～心の悩み  
を聴く～」(産学交流プラザ(彩の国8番館)インフォメーションルーム)  
【参加者84名】

パネリスト: 古川第一郎 (南越谷コイノニア教会牧師)

小倉 義明 (学校法人聖学院副院長, 女子聖学院中学高  
等学校校長)

平山 正実 (聖学院大学総合研究所客員教授, 東洋英和  
女学院大学人間科学部教授)

藤掛 明 (聖学院大学総合研究所専任講師)

9. 2004年11月29日 聖学院大学国際シンポジウム「第二次世界大戦後の教  
育と宗教」(聖学院大学ヴェリタス館・教授会室)【参加者114名】

基調講演:「戦後日本の教育と宗教政策」

田丸 徳善 (東京大学名誉教授)

パネリスト: ウィリアム・ジョンソン・エバレット

(アンドーヴァー・ニュートン神学大学名誉教授)

フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ

(ミュンヘン大学教授)

コーディネータ：深井 智朗（聖学院大学総合研究所助教授）

通訳： 近藤 正臣（大東文化大学教授）

藤原 淳賀（聖学院大学総合研究所助教授）

10. 2005年2月19日 聖学院大学国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義——日韓国交40年と日本の針路——」（都市センターホール会館6階606会議室）【参加者107名】

記念講演： 孔 魯明（元韓国外相，翰林大学日本学研究所所長）

基調講演： 木宮 正史（東京大学助教授）

パネリスト：孔 魯明（元韓国外相，翰林大学日本学研究所所長）

木宮 正史（東京大学助教授）

水野 孝昭（朝日新聞政治部次長，元ワシントン特派員）

李 元徳（韓国国民大学教授，東京大学客員教授）

康 仁徳（元大韓民国統一部長官，聖学院大学総合研究所客員教授）

モデレーター：小田川 興（聖学院大学総合研究所客員教授）

11. 2005年3月26日 聖学院大学総合研究所シンポジウム「グローバル化と『日本の神学』」（高輪プリンスホテル国際宗教学宗教史会議19回世界大会会場Room A）【参加者30名】

基調講演： 大木 英夫（聖学院大学総合研究所所長，学校法人聖学院理事長・院長）

パネリスト：大木 英夫

深井 智朗（聖学院大学総合研究所助教授）

藤原 淳賀（聖学院大学総合研究所助教授）

ディヴィット・オオキ・エーハン（ラグレインジ大学助教授）

洛 雲海（韓国長老会神学大学校大学院 Ph. D. Candidate）

通訳： 近藤 正臣（大東文化大学教授）

12. 2005年4月15日 聖学院大学シンポジウム「悲嘆と信仰」（産学交流プラ

ザ（彩の国8番館）セミナールーム【参加者86名】

パネリスト：関 正勝（立教大学名誉教授，聖公会神学院校長）  
鶴沼 裕子（聖学院大学大学院特任教授，聖学院大学総合研究所特任教授）  
平山 正実（聖学院大学総合研究所客員教授，東洋英和女学院大学人間科学部教授）  
コーディネータ：藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）

13. 2005年4月28日 第2回聖学院大学都市経営シンポジウム「これからの都市再生——分権・協働のあり方を考える——」（大宮ソニックシティ・小ホール）【参加者223名】

主催者挨拶：大木 英夫（聖学院理事長，聖学院大学総合研究所長）  
基調講演：「これからの都市像を問う——都市再生の視点から」  
月尾 嘉男（東京大学名誉教授，前総務省総務審議官）  
実践講演：「私の地域づくり，分権改革の実践」  
北川 正恭（早稲田大学大学院教授，前三重県知事）

パネルディスカッション：

「これからの都市再生——分権，協働のあり方」

パネリスト：月尾 嘉男（前掲）  
北川 正恭（前掲）  
穂坂 邦夫（埼玉県志木市長）  
田中 栄治（NPO地域交流センター代表理事）  
平 修久（聖学院大学教授）

コーディネータ：佐々木信夫（本学客員教授，中央大学教授）

14. 2005年6月24日 講演会「マックス・ヴェーバーと私の研究史」（聖学院本部新館）【参加者39名】

内田 芳明（横浜国立大学名誉教授）

15. 2005年9月30日，10月1日 聖学院・公共哲学フォーラム（聖学院大学エルピスホール）【参加者 9月30日 36名 10月1日 41名】

テーマ：「日本における教会の意義と役割の再検討——公共する教会とは」

コーディネータ：金 泰昌（公共哲学協働研究所所長）

深井 智朗（聖学院大学総合研究所助教授）

2005年9月30日（金）

開会挨拶： 矢崎 勝彦（京都フォーラム事務局長）

大木 英夫（学校法人聖学院理事長・院長，聖学院大学  
総合研究所所長）

プログラムA：

講演「教会の公共性——日本における教会の意義と役割(1)カトリック」

高柳 俊一（上智大学名誉教授）

ディスカッション司会：藤原 淳賀（聖学院大学総合研究所助教授）

プログラムB：

講演「教会の公共性——日本における教会の意義と役割(2)プロテスタント」

深井 智朗（聖学院大学総合研究所助教授）

ディスカッション司会：藤原 淳賀（聖学院大学総合研究所助教授）

プログラムC：

講演「教会の公共性——日本における教会の意義と役割(3)無教会」

村松 晋（聖学院大学人文学部日本文化学科専任講師）

ディスカッション司会：藤原 淳賀（聖学院大学総合研究所助教授）

プログラムD：

シンポジウム「教会の公共性」

コーディネータ：深井 智朗

「教会は公共の場としての可能性——アフリカに学ぶ日本の教会」

上村 敏文（ルーテル学院大学助教授）

「教会の公共性・聖公会神学の理解から」

西原 廉太（立教大学文学部キリスト教学科長，助教授）

「『本質的共同体』としての教会」

藤原 淳賀（聖学院大学総合研究所助教授）

ディスカッション司会：藤原 淳賀

総合討議司会：深井 智朗（聖学院大学総合研究所助教授）

2005年10月1日（土）

プログラムE：

講演「『公共する』時空としての教会」



金 泰昌（公共哲学共働研究所所長）

ディスカッション司会：深井 智朗

プログラムF：

シンポジウム「宗教の公共性——教会と社会」

コーディネータ：深井 智朗

Part 1 「企業と教会」

速水 優（前日銀総裁，聖学院大学総合研究所全学教授）

Part 2 「行政機関（自治体）と教会」

郡司 篤晃（聖学院大学大学院教授）

Part 3 「NPOと教会」

藤田 幸久（NPO代表・民主党代議士）

ディスカッション司会：深井 智朗

プログラムG：

シンポジウム「日本の共同論と教会」

コーディネータ：藤原 淳賀

「公共神学か公共社会論か——政教分離論の視点から」

森本あんり（国際基督教大学教授）

「CSR（企業の社会的責任）の時代と礼拝共同体＝キリスト教の公共性と大原孫三郎」

東方 敬信（青山学院大学教授）

「日本の共同体をめぐる——森有正・和辻哲郎・国学（宣長）」

清水 正之（東京理科大学教授）

総合討論司会：金 泰昌（公共哲学共働研究所所長）

閉会挨拶：阿久戸光晴（聖学院大学学長）

16. 2005年10月7日 聖学院大学シンポジウム「スピリチュアリティとこころの援助」（産学交流プラザ（彩の国8番館）セミナールーム）【参加者108名】

パネリスト：窪寺 俊之（関西学院大学神学部教授，日本パストラルケア・カウンセリング協会副会長）

近藤 勝彦（東京神学大学教授，聖学院大学大学院特任教授）

平山 正実（聖学院大学総合研究所客員教授，東洋英和  
女学院大学人間科学部教授）

コーディネータ：藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）

17. 2005年10月29日 国際シンポジウム「戦後60年——ドイツと日本」（東  
京芸術劇場大会議室）【参加者107名】

挨拶： 大木 英夫（聖学院理事長・院長）

ヴェルナー・カンペーター（ドイツ連邦共和国大使館参  
事官）

**プログラムA** 戦後60年——ドイツと日本の場合戦後両国はどのような  
国家をめざしたのか～

国際政治の視点から——冷戦・グローバリゼーション

ヴェルナー・カンペーター（ドイツ連邦共和国大使館参  
事官）

社会政策・社会保障論の視点から

ハラルト・コンラット（ドイツ・日本研究所学術研究員，  
フリードリヒ・エーベルト財団日本代表）

経済政策の視点から——強い通貨，強い経済

速水 優（前日本銀行総裁，聖学院大学全学教授）

教育システム，とくに教科書問題から

スヴェン・サーラ（東京大学大学院総合文化研究科・教  
養学部助教授）

宗教政策の問題——ドイツの場合と日本の場合

深井 智朗（聖学院大学総合研究所助教授）

コメンテータ：真野 輝彦（聖学院大学大学院・聖学院大学総合研究  
所特任教授）

康 仁徳（聖学院大学総合研究所客員教授，元韓国統  
一部長官）

阿久戸光晴（聖学院大学学長）

コーディネータ：深井 智朗（聖学院大学総合研究所助教授）

**プログラムB** 戦後両国はどのような国家をめざしたのか，そしてグロー  
バル化する世界の中でどのような役割を果たせるのか。その精神的構造を

ふまえて論じる。

「戦後60年——ドイツの場合」

クリストフ・シュヴェーベル (テュービンゲン大学教授)

「戦後60年——日本の場合」 大木 英夫 (聖学院理事長・院長)

コメンテータ: 深井 智朗 (聖学院大学総合研究所助教授)

洛 雲海 (韓国長老派神学大学院 Ph. D. candidate)

藤原 淳賀 (聖学院大学総合研究所助教授)

コーディネータ: 深井 智朗 (聖学院大学総合研究所助教授)

同時通訳: 近藤 正臣 (大東文化大学経済学部教授)

木村 綾子 (大東文化大学非常勤講師, 神田外国語大学  
エクステンションコース講師)

閉会挨拶: 古屋 安雄 (聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文  
化学研究科長)

18. 2005年12月17日 聖学院ポリシー・カレッジ公開討論「行政のアウトソーシングを考える——官と民, 住民の協働とは——」(産学交流プラザ(彩の国8番館)セミナールーム)【参加者69名】

小講演: 福嶋 浩彦 (我孫子市長)

光多 長温 (鳥取大学教授)

パネルディスカッション:

福嶋 浩彦 (前掲)

北谷 孝和 (経済産業省新規産業室長)

光多 長温 (前掲)

コーディネータ: 佐々木信夫 (聖学院大学総合研究所客員教授)

19. 2006年2月18日 国際シンポジウム「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題の解決の道を探る」(メトロポリタンプラザ2階会議室)【参加者143名】

基調講演: ヤン・C・キム (ジョージワシントン大学名誉教授)

パネル・ディスカッション:

ヤン・C・キム (前掲)

金 慶敏 (漢陽大学政治外交学科教授)

中村 史郎 (朝日新聞外報部次長)

李 庚男 (亜細亜大学アジア研究所研究員)

モデレータ: 小田川 興 (聖学院大学客員教授)

20. 2006年2月21日 聖学院大学シンポジウム「キャラクターと子ども・若者——持ち歩く現象をめぐって——」【参加者74名】

講演: 松田 恵示 (東京学芸大学教育学部助教授・子ども未来研究所プロジェクト長)

パネルディスカッション:

松田 恵示 (前掲)

村山 順吉 (聖学院大学人間福祉学部児童学科教授・学科長・聖学院みどり幼稚園副園長)

山田麻有美 (聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授)

司会: 森下みさ子 (聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授)

## (2) 共同研究

総合研究所では学内外の各教員・研究者のそれぞれの専門分野での研究を重んじながらそれぞれの研究成果を持ち寄り総合的に研究する「共同研究」を推進している。

「共同研究規程」に基づき研究代表者から申請された「共同研究計画」を総合研究所委員会で審議・決定し、各プロジェクトでは年度終了時点で「共同研究報告書」を提出し総合研究所委員会で成果の評価を実施している。

2003年度から2005年度までに下記の共同研究プロジェクトが活動しました現在も定期的に研究が進められている。なお研究組織は2005年度のものである。また、研究者の肩書きは発表時のものである。

### 1 語学教育研究（2003～2005年）

英語一貫教育の理論的、実際的研究をし、各学校にその成果を提案することを目的とする。対象となる学校の範囲は、全法人とし、英語の一貫教育を総合的に目指す。理論的、実際的研究の対象を Two-way Bilingual Immersion Programs に特化し、研究の成果を小学校における英語教育の改善に適用し、これを幼稚園から大学・大学院にいたる聖学院の英語教育改善に適用していく。

#### 〈研究組織〉

|           |                    |
|-----------|--------------------|
| 寺田 正義     | 聖学院大学人文学部欧米文化学科・教授 |
| 江川美知子     | 聖学院大学人文学部欧米文化学科・教授 |
| R・D・バーガー  | 聖学院大学人文学部日本文化学科・教授 |
| 長坂 達彦     | 聖学院大学人文学部欧米文化学科・教授 |
| E・D・オズバーン | 聖学院大学基礎総合教育部・助教授   |
| M・サベット    | 聖学院大学総合研究所・助教授     |
| B・バード     | 聖学院大学総合研究所・講師      |

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 藤原真知子 | 聖学院大学総合研究所・講師     |
| 小倉 義明 | 女子聖学院中学校・高等学校・校長  |
| 村瀬 聡子 | 女子聖学院中学校高等学校・校長補佐 |
| 山下ルミ子 | 女子聖学院中学校高等学校・教諭   |
| 角田 秀明 | 聖学院中学校高等学校・教諭     |
| 清水 世界 | 聖学院中学校高等学校・教諭     |
| 大野 碧  | 聖学院小学校・校長         |
| 角田 芳子 | 聖学院小学校・教頭         |
| 佐藤 慎  | 聖学院小学校・教諭         |
| 新井 裕子 | 聖学院小学校・教諭         |
| 風間 美加 | 聖学院みどり幼稚園・教諭      |
| 島田 尚子 | 聖学院幼稚園・教諭         |

## 1) 研究会

### 2003年度

研究会は、駒込・愛恵ビルの2階20Aを主な会場として開催した。

- (1) 2003年5月12日 「聖学院教育会議英語教育部会アクションプランの確認」  
【参加者9名】
- (2) 2003年7月7日 「聖学院中学校・高等学校の英語教育」【参加者18名】  
清水 世界（聖学院中学校・高等学校教諭）
- (3) 2003年10月20日 「“Two-Way Bilingual Immersion Programs”」【参加者19名】  
ウィリアム・G・クレラ特別顧問
- (4) 2003年11月17日 「女子聖学院中学校・高等学校の英語教育」【参加者17名】  
村瀬 聡子、山下ルミ子（女子聖学院中学校高等学校）
- (5) 2003年2月9日 「聖学院小学校の英語教育の現状」【参加者29名】  
角田 芳子（聖学院小学校教頭）ほか

### 2004年度

- (1) 2004年4月26日 「聖学院みどり幼稚園の英語教育」について【参加者19名】

- S・ボイド, 風間 美加 (聖学院みどり幼稚園教諭)
- (2) 2004年5月17日 「聖学院小学校の新しい英語教育プログラム」について  
【参加者23名】  
W・G・クレーラ (国際センター所長) ほか
- (3) 2004年7月12日 「聖学院中学校レベル別クラスの編成の成果」【参加者19名】  
白井百合子, 倉澤明子 (聖学院中学校・高等学校教諭)
- (4) 2004年10月4日 「小学校から期待される中学校の英語教育」【参加者21名】  
メヘラン・サベット 聖学院大学総合専任講師
- (5) 2004年12月13日 「聖学院の英語教育プログラム——小学校から中学校への連携について」【参加者22名】  
メヘラン・サベット (SLI所長)  
寺田 正義 (聖学院大学教授)
- (6) 2004年1月24日 「聖学院大学シネマイングリッシュ」【参加者24名】  
江川美知子 (聖学院大学教授)  
メイス・みよ子 (聖学院大学特任講師)  
岡田 靖子 (聖学院大学特任講師)

#### 2005年度

- (1) 2005年5月30日 「高校3年生の読解指導」【参加者18名】  
磯貝 創一 (聖学院中学校・高等学校教諭)
- (2) 2005年7月11日 「『英語教育年報2004』をめぐって」【参加者22名】  
島田 尚子 (聖学院幼稚園)  
藤原真知子 (聖学院大学総合研究所特任講師)  
清水 明子 (女子聖学院中学校・高等学校教諭)  
清水 世界 (聖学院中学校・高等学校教諭)
- (3) 2005年10月24日 「理論言語学の動向」【参加者16名】  
福井 直樹 (上智大学教授)
- (4) 2006年1月30日 「女子聖学院中学校1年の英語教育」【参加者21名】  
菊池 真弓 (女子聖学院中学校)  
加納由美子 (女子聖学院中学校)

Peter Blank (女子聖学院中学校)

Nathan Blakeslee (女子聖学院中学校)

(5) 2006年2月20日「聖学院小学校と中学校の英語教育の連携」【参加者24名】

藤原真知子 (聖学院大学総合研究所講師)

Brian Byrd (聖学院大学総合研究所講師)

2) 講演会として

2003年12月1日(月)「学校英語教育でほんとうにやらなければならないこと」

【参加者24名】

大津由紀雄 (慶應義塾大学教授)

3) ワークショップとして

2003年12月20日

「小学校英語教育」についてのワークショップ【参加者17名】

マーシャル・R・チャイルズ

(富士フェニックス短期大学名誉教授)

2003年3月25日～26日

“Attachment Dynamics and Second Language Learning for Elementary School Children”【参加者 25日16名, 26日14名】

カルビン・ジョンストン

(クリスチャン・アカデミー・ジャパン校長)

2005年3月10日～11日

“Teaching Vocabulary in English Language Programs”

【参加者3月10日 30名, 3月11日: 28名】

ポール・ネーション

(ヴィクトリア大学ウェリントン校教授)

2006年3月9日～10日

“The Elements of Language Curriculum: A Systematic Approach to Program Development”【参加者 10日20名, 11日13名】

ジェームズ・ディーン・ブラウン (ハワイ大学教授)



#### 4) 加藤学園シンポジウムへの参加

2004年11月19日～20日 英語イマージョン教育を実施している沼津市の加藤学園が主催したシンポジウムに語学研究会からメヘラン・サベット講師を派遣した。

#### 5) 『英語教育年報』の発行

2003年度, 2004年3月20日発行, A4判, 200頁

2004年度, 2005年3月20日発行, A4判, 156頁

2005年度, 2006年3月20日発行, A4判, 134頁

## 2 グローバリゼーション研究

(第1期 2003～2005年, 第2期 2006～2008年)

本研究では, グローバル化の時代における新しい世界秩序形成の諸条件を政治・経済・文化の3つの位相において検討し, グローバルな共同体の形成に際しては, 西洋的価値の優位が避けられないとしても, 常に外部に開かれ, 異質な要素を摂取する「グローバル共同体」でなければならない。その理念を基礎付けることが本研究の最終的目的である。

### 〈研究組織〉

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 田中 浩  | 聖学院大学総合研究所・客員教授             |
| 大木 英夫 | 聖学院大学総合研究所長                 |
| 阿久戸光晴 | 聖学院大学学長                     |
| 有賀 貞  | 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科・教授 |
| 千葉 眞  | 国際基督教大学・教授                  |
| 田中 豊治 | 聖学院大学総合研究所・客員教授             |
| 近藤 勝彦 | 東京神学大学・教授                   |
| 大澤 麦  | 首都大学東京都市教養学部・教授             |
| 梅津 順一 | 聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授         |
| 速水 優  | 聖学院大学全学教授                   |
| 康 仁徳  | 聖学院大学総合研究所・客員教授             |

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 真野 輝彦 | 聖学院大学大学院・総合研究所・特任教授        |
| 岩島 久夫 | 聖学院大学大学院政治政策学研究科・客員教授      |
| 富沢 賢治 | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科・教授   |
| 古屋 安雄 | 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科教授 |
| 森田美千代 | 聖学院大学総合研究所・助教授             |
| 川添未央子 | 聖学院大学政治経済学部・専任講師           |

## 第1期

- (1) 2003年12月8日 「現代アメリカの多元主義」【参加者20名】  
有賀 貞（聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科・教授）
- (2) 2003年1月19日 「グローバリゼーションの問題」【参加者31名】  
大木 英夫（聖学院大学総合研究所長）
- (3) 2003年2月16日 「生命とグローバリゼーション」【参加者24名】  
田中 智彦（東京医科歯科大学助教授）
- (4) 2003年3月8日 「グローバリゼーションとキリスト教」【参加者20名】  
ポール・土戸・シュー（聖学院大学総合研究所客員研究員）
- (5) 2004年4月19日 「グローバリゼーションと国際金融問題」【参加者25名】  
速水 優（聖学院大学総合研究所全学教授）  
眞野 輝彦（聖学院大学総合研究所特任教授）
- (6) 2004年5月17日 「21世紀の安全保障を考える——ハードキルからソフトキルへ」【参加者15名】  
岩島 久夫（聖学院大学大学院客員教授）
- (7) 2004年6月7日 「グローバリゼーションの政治」  
坂本 義和（東京大学名誉教授）【参加者23名】
- (8) 2004年7月5日 「時代としてのグローバリゼーション」【参加者23名】  
伊豫谷登土翁（一橋大学大学院社会学研究科教授）
- (9) 2004年10月4日 「宗教とグローバリゼーション」【参加者15名】  
中野 毅（創価大学教授）
- (10) 2004年12月6日 「経済におけるグローバリズム」【参加者19名】  
伊東 光晴（京都大学名誉教授）

- (11) 2004年12月10日「グローバリゼーションと中国の対応」【参加者20名】  
 戦 憲斌（清華大学教授）
- (12) 2005年2月21日「グローバリゼーションと日本経済」【参加者14名】  
 眞野 輝彦（聖学院大学大学院教授）
- (13) 2005年3月7日「グローバリゼーションと情報」【参加者15名】  
 加藤 哲郎（一橋大学教授）
- (14) 2005年5月9日「現代市民社会論のグローバルな地平」【参加者14名】  
 川原 彰（中央大学教授）
- (15) 2005年6月20日「経済のグローバル化における国際制度形成——バーゼル合意（BIS規制）を事例として——」【参加者15名】  
 古城 佳子（東京大学教授）
- (16) 2005年7月4日「グローバリゼーションへの対抗理論」【参加者13名】  
 渡辺 雅男（一橋大学教授）
- (17) 2005年10月3日「グローバル化とグローバルガバナンスをめぐって」  
 【参加者15名】  
 中谷 義和（立命館大学教授）
- (18) 2004年11月14日「グローバル（地球的域）公共哲学の展望・主体・文化・政治」【参加者20名】  
 小林 正弥（千葉大学教授）
- (19) 2005年12月5日「グローバリゼーションと構造改革」【参加者12名】  
 井戸 正伸（早稲田大学教育学部教授）
- (20) 2005年1月16日「ステイト・ネイション・ナショナリズムの関係——カント『永遠平和のために』の歴史的コンテキスト」  
 【参加者21名】  
 平子 友長（一橋大学教授）
- (21) 2005年2月13日「政治的党派性とサプライサイドの福祉政策——OECD諸国における公的教育投資の予備的分析」【参加者17名】  
 眞柄 秀子（早稲田大学教授）

講演会として2004年11月23日に大学と共催で、講演会を開催した。

「グローバリゼーションと日本の教育改革」

速水 優（聖学院大学総合研究所全学教授）

### 3 埼玉県の中核都市圏形成及び都市政策に関する調査研究

#### 〈研究組織〉

|       |  |
|-------|--|
| 佐々木信夫 | 聖学院大学総合研究所客員教授・研究代表                    |
| 大木 英夫 | 聖学院大学総合研究所所長・研究顧問                      |
| 恒松 征治 | 聖学院大学総合研究所客員教授・研究顧問                    |
| 中邨 章  | 聖学院大学総合研究所客員教授・研究顧問・都市制度論<br>(03・04年度) |
| 平 修久  | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科教授・都市及び地域計画       |
| 高端 正幸 | 聖学院大学政治経済学科講師                          |
| 西川太一郎 | 聖学院大学総合研究所特任教授 (04年度のみ)                |
| 橋 裕子  | 埼玉県越谷県土整備事務所開発建築部                      |
| 稲葉 尚子 | 埼玉県総合政策部改革政策局                          |
| 北村 芳之 | 埼玉県総合政策部文化振興課                          |
| 伊東 弘道 | さいたま市政策企画部企画調整課                        |
| 吉田 亀司 | さいたま市企画財政部企画調整課                        |
| 諸橋 秀之 | さいたま市保健所                               |
| 田中 正美 | 埼玉県総合政策部改革政策局                          |
| 吉永 広樹 | 上尾市企画財政部総合政策課                          |
| 箕輪信一郎 | 川越市市長室政策企画課                            |
| 鈴木 巧  | 川口市都市計画部都市計画課                          |
| 石塚 正歳 | 岩槻市総務部人事課                              |
| 新島 光明 | 桶川市市民生活部自治文化課                          |
| 坂詰 和子 | 北本市秘書政策室                               |
| 田中 芳樹 | アルク設計事務所所長                             |
| 武澤 真紀 | 彩の国さいたま人づくり広域連合自治人材開発センター              |

## 1. 都市経営研究会

### 2003年度

- (1) 2003年6月20日 「都市計画と公共性」  
中井 検裕 (東京工業大学教授)
- (2) 2003年9月5日 「世田谷区におけるまちづくりの成果と課題」  
八頭司達彦 (世田谷区助役)
- (3) 2003年10月16日 「まちづくりにおける合意形成のあり方」  
小泉 秀樹 (東京大学大学院工学系研究科・工学部助教授)

### 2004年度

- (1) 2004年6月11日 「NPMにおける協働の位置づけ」【参加者19名】  
宮脇 淳 (北海道大学法学部研究科教授)
- (2) 2004年7月23日 「地域経営の考え方——ローカル・ガバナンスとローカル・マネジメント」【参加者75名】  
海野 進 (富山県職員・中小企業診断士)
- (3) 2004年9月30日 「志木市における市民と行政の協働」【参加者13名】  
尾崎 誠一 (志木市企画部政策審議室主幹)  
原藤 光 (志木市民委員会会長)
- (4) 2004年11月18日 「大和市の市民活動推進条例及び協働事業」【参加者14名】  
小山 祐子 (大和市民活動課副主幹)  
川崎 民子 (大和市協同推進委員)
- (5) 2005年2月25日 「協働を踏まえた市政改革」【参加者12名】  
福嶋 浩彦 (我孫子市長)

### 2005年度

- (1) 2005年6月16日 「地域マネージメントの発想と行政のアウトソーシング」  
【参加者17名】  
川村 雅人 (三菱総合研究所主任研究員)

- (2) 2005年7月27日 「PPPについて」【参加者17名】  
光多 長温（鳥取大学地域学部教授）
- (3) 2005年10月13日 「わが国のPFIの実践状況と課題」【参加者22名】  
熊谷 弘志（KPMG ビジネスアシュアランス株式会社  
ディレクター）
- (4) 2006年1月19日 「市場化テスト法案とそのねらい、課題」【参加者13名】  
荒川 潤（三菱UFJリサーチ&コンサルティング主  
任研究員）
- (5) 2006年3月2日 「行政アウトソーシングとコスト分析」【参加者13名】  
櫻井 通晴（専修大学経営学部教授）

「都市提言」の発表

「政策指定都市への政策提言——行政区の新しい方向」

2003年4月，B5判，28頁。

「協働型まちづくりへの提言——市民と行政の新しい関係」

2004年4月，B5判，15頁。

「協働による自治体経営についての提言」

2005年4月，B5判，25頁。

## 2. まちづくり研究会（2005年度より）

### 2005年度

- (1) 2005年9月22日【参加者16名】  
「活動を通じて感じた大切な気付き」  
関口いづみ（環境NGOちびっ子探検隊代表）  
「身近な自然を知り，親しみ，守る」  
高橋絹世（緑と湧き水と流れの会代表）
- (2) 2005年11月24日【参加者18名】  
「都市マスタープランを起点とした，ゆるやかなネットワークづくり」  
片桐 和紀（特定非営利活動法人NPOくまがや代表理事）  
「地域ねこからまちづくり」  
野田 静枝（NPO法人アニマル・サポート・メイト代表理事）
- (3) 2006年2月8日【参加者21名】

「近代化遺産を活かしたまちづくり・行田の例」

朽木 宏 (NPO 法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク代表理事)

「ホテルを通して見沼田んぼの自然と地域コミュニティの創造」

福本 美敬 (ホテル再生池保全推進会議会長)

#### 4 グローバリゼーションの文脈における総合的日本研究

(第1期1996～1998, 第2期1999～2001, 第3期2002～2004年)

日本を相対化し、客観化する視座を、グローバリゼーションの文脈におき、21世紀における日本の位置づけ、そこにおける日本人の精神的課題を明らかにすることを目指している。

##### 〈研究組織〉

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 大木 英夫 | 聖学院大学総合研究所所長         |
| 鵜沼 裕子 | 聖学院大学総合研究所特任教授日本研究室長 |
| 清水 正之 | 東京理科大学教授             |
| 標 宮子  | 聖学院大学人文学部日本文化学科長     |
| 清水 均  | 聖学院大学人文学部日本文化学科教授    |

- (1) 2003年6月24日 「近世中期儒学の教育思想」【参加者15名】  
石津 靖大 (聖学院大学助教授)
- (2) 2003年9月16日 「日本の『哲学』を読み解く「無」の時代を生き抜くために」【参加者11名】  
田中 久文 (日本大学教授)
- (3) 2003年3月9日 「イデオロギーとしての日本文化からの脱却——北村透谷の〈ゆらぎ〉を軸として」【参加者13名】  
清水 均 (聖学院大学助教授)
- (4) 2004年6月22日 「鈴木大拙『日本的靈性』をめぐって」【参加者13名】  
田之倉亮爾 (浄土真宗本願寺, 浄興寺住職)
- (5) 2004年9月17日 「日本文学史における桜花」【参加者19名】  
岡田 潔 (聖学院大学人文学部日本文化学科教授)

- (6) 2005年2月22日 「日本の思想における〈公と私、および超越〉——表現されることと私秘なるものの関係をめぐって」  
【参加者15名】  
清水 正之（東京理科大学教授）
- (7) 2005年7月18日 「国学の他者像」について」【参加者21名】  
清水 正之（東京理科大学）  
質問者：柳田 洋夫（聖学院大学大学院博士後期課程）
- (8) 2006年1月24日 「G・ブレスウエイトの活動——平和問題をを中心に」  
【参加者12名】  
黒木 章（聖学院大学教授）

## 5 大学と地域社会（地域とアソシエーション）研究会

### 〈研究組織〉

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 梅津 順一 | 聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授     |
| 富沢 賢治 | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科教授 |
| 平 修久  | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科教授 |
| 柴田 武男 | 聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授     |
| 清水 均  | 聖学院大学人文学部日本文化学科教授       |
| 柴田 史子 | 聖学院大学人文学部欧米文化学科教授       |
| 鈴木美登利 | 聖学院大学コミュニティ活動支援センター地域担当 |

### 2003年度

- (1) 2003年5月14日 「日本労働者協同組合連合会の事例から」  
菊地 謙（協同総合研究所）  
岡本 章寛（労働者協同組合センター事業団）
- (2) 2003年7月16日 「埼玉県上尾市のNPO協働推進計画の策定について」  
高橋 昭（NPO法人「あげお未来フォーラム21」代表）
- (3) 2003年12月17日 「地域社会と大学を結ぶNPO——コミュニティ活動支援センターの事例」



富沢 賢治（聖学院大学コミュニティ政策学科長・教授）

- (4) 2004年2月25日 「地域と地域をつなぐ」  
長澤 義春（上尾市戸崎地区まちづくり協議会会長）  
須賀 隆夫（宮原駅西口まちづくり協議会会長）
- (5) 2004年3月10日 「宮原駅西口地域のまちづくりの問題点を明らかにして、  
解決策を探る」  
高橋 秀明（元埼玉県特別秘書）  
田中 昇（イエローサブマリン社長）

#### 2004年度

- (1) 2004年7月21日 「『逆川』に見る地域の環境・景観問題」  
須賀 隆夫（宮原駅西口まちづくり協議会会長）  
高橋 良（さいたま市議員）
- (2) 2004年12月15日 「宮原駅西口地域のまちづくりマップ」  
東内 勝美（東内建築設計事務所・一級建築士）
- (3) 2005年1月24日 「協働によるまちづくりの手法」  
須賀 隆夫（宮原駅西口まちづくり協議会会長）  
高橋 良（さいたま市議員）  
東内 勝美（東内建築設計事務所・一級建築士）

## 6 日韓研究

韓国の韓林大学校日本学研究所と共同で、1940年頃から1950年の朝鮮戦争の勃発まで、朝鮮半島の民衆がどのような経験をし、戦後の国家像をどのように描いていたのかを調査・研究する。

#### 〈研究組織〉

|       |                    |
|-------|--------------------|
| 康 仁徳  | 聖学院総合研究所客員教授       |
| 小田川 興 | 聖学院大学総合研究所客員教授     |
| 岩島 久夫 | 聖学院大学大学院・総合研究所客員教授 |

孔 魯明 翰林大学校日本学研究所長  
木宮 正史 東京大学大学院総合文化研究科助教授  
金 賛汀 在日朝鮮人・韓国人史研究家

#### 研究会として

- (1) 2003年4月17日 座談会「北朝鮮問題をどう解くか」(朝日新聞社会議室)  
李 鍾元 (立教大学教授)  
伊豆見 元 (静岡県立大学教授)  
朱 建栄 (東洋学園大学教授)  
和田 春樹 (東京大学名誉教授)  
康 仁徳 (聖学院大学総合研究所客員教授)  
小田川 興 (聖学院大学客員教授)
- (2) 2004年1月28日 「植民地朝鮮のメディアに表れた日本及び日本人——新聞・雑誌が伝える言動」【参加者 18名】  
小田川 興 (聖学院大学総合研究所客員教授)
- (3) 2004年12月14日 「脱北者に聞き取り調査について」【参加者 13名】  
康 仁徳 (聖学院大学総合研究所客員教授)  
小田川 興 (聖学院大学総合研究所客員教授)

#### 日韓中学術セミナーとして

国際交流基金の「知的交流会議プログラム」の助成を受けて実施した。

- (1) 2005年7月29日 第1回日韓中学術セミナー【参加者 30名】  
(北韓大学院国際会議室・ソウル)  
挨拶とセミナーの主旨説明：「北朝鮮の現状と改革可能性」について  
康 仁徳 (元韓国統一相・聖学院大学総合研究所客員教授)  
司会：小田川 興 (聖学院大学総合研究所客員教授)  
研究報告：  
「北朝鮮の農業改革現状と展望」  
南 成旭 (高麗大学校人文大学北韓学科助教授)  
「北朝鮮経済の市場形成と発展——実態と合意」  
梁 文秀 (慶南大学北韓大学院助教授)  
「金日正体制と日本の対北朝鮮対策」

鈴木 典幸（ラヂオプレス理事）〔資料代読〕

「中国の改革経験から見た北朝鮮の変化」

朱 建栄（東洋学園大学教授）

コメント：「北朝鮮の改革可能性」

康 仁徳（前掲）

「脱北者証言に見る北朝鮮住民の生活・人権」

尹 洪錫（韓国外国語大学講師）

「北朝鮮農業改革の現況」

李 日榮（韓神大学中国地域学部教授）

総括と提言：小田川 興（聖学院大学総合研究所客員教授）

(2) 2005年11月18日 第2回日韓中学術セミナー

「北朝鮮の改革可能性——中国の改革との比較を中心に」【参加者39名】

（聖学院本部新館2階会議室）

挨拶：大木 英夫

（学校法人聖学院理事長・院長，聖学院大学総合研究所長）

康 仁徳

（財團法人極東問題研究所所長，元韓国統一相，慶南大学

北韓大学院特別教授，聖学院大学総合研究所客員教授）

学術セミナー「北朝鮮の改革可能性——中国の改革との比較を中心に」

司会：小田川 興（聖学院大学総合研究所客員教授）

「北朝鮮の最近の食糧事情と配給制復活の意味」

南 成旭（前掲）

「中朝貿易から見る北朝鮮経済の現状」

鈴木 典幸（前掲）

「中国の改革開放政策は北朝鮮にとって参考になりうるか」

朱 建栄（前掲）

「北朝鮮での市場の形成と発展——実体と含意」

梁 文秀（前掲）

「中国と北朝鮮の経済関係」

李 虎男（亜細亜大学アジア研究所研究員）

## 7 組織神学研究センター

現代神学者の思想を取り上げ自立した神学思想を形成するためのキリスト教弁証学を検討する。

### 〈研究組織〉

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 深井 智朗 | 聖学院大学総合研究所助教授              |
| 大木 英夫 | 聖学院大学総合研究所所長               |
| 古屋 安雄 | 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科教授 |
| 千葉 眞  | 国際基督教大学教養学部教授              |
| 東方 敬信 | 青山学院大学経済学部教授               |
| 藤原 淳賀 | 聖学院大学総合研究所助教授              |
| 森本あんり | 国際基督教大学教養学部教授              |
| 徳田 信  | 東京大学大学院関連社会学研究科生           |
| 西原 廉太 | 立教大学文学部キリスト教学科助教授          |
| 田上 雅徳 | 慶応義塾大学法学部助教授               |

### ①ラインホルド・ニーバー研究 (2003年～2004年)

- (1) 2003年6月10日 「『Nature and Destiny of Man, Vol.2』について I」【参加者12名】  
深井 智朗 (聖学院大学総合研究所助教授)
- (2) 2003年7月14日 「『Nature and Destiny of Man, Vol.2』について II」【参加者12名】  
深井 智朗 (聖学院大学総合研究所助教授)
- (3) 2003年10月28日 「ニーバーの恩寵論」【参加者12名】  
久保島理恵 (聖学院大学非常勤講師)
- (4) 2003年3月30日 「書籍合評会」【参加者10名】  
西谷 幸介 (東北学院大学教授)
- (5) 2004年4月28日 「H・リチャード・ニーバーにおけるラインホルド・ニーバーの歴史理解」【参加者12名】  
藤原 淳賀 (聖学院大学総合研究所助教授)

- (6) 2004年5月26日 「R・ニーバーについての『信仰と歴史』, H・R・ニーバーについての『信仰と歴史』」【参加者12名】  
深井 智朗 (聖学院大学総合研究所助教授)
- (7) 2005年2月8日 「ラインホルド・ニーバーのソーシャルワーク観」  
【参加者11名】  
西川 淑子 (龍谷大学社会学部助教授)

## ②公共神学研究

- (1) 2005年5月2日 「日本の神学について」【参加者24名】  
森本あんり (国際キリスト教大学教授)  
古屋 安雄 (聖学院大学大学院教授)  
潮 匡人 (聖学院大学総合研究所特任研究員)
- (2) 2005年6月21日 「新約聖書における平和：公共神学としての平和 (Peace in the New Testament: Peace as Public Theology)」【参加者22名】  
Willard Swartley (professor of New Testament Mennonite Biblical Seminary, Elkhart, Indiana)
- (3) 2005年7月11日 「アジアの神学」【参加者16名】  
森本あんり (国際キリスト教大学教授)
- (4) 2005年11月29日 「P・T・フォーサイスにおける歴史の神学——神義論を中心として」(公共神学研究会との共同開催)【参加者15名】  
高 萬松 (聖学院大学総合研究所特任研究員)

## 8 EU研究

EU統合の実態を歴史的、文化的な比較的方法を持って正確に理解し、日本のEU政策への提言も目標にして研究を進める。

### 〈研究組織〉

大木 雅夫 聖学院大学大学院政治政策学研究科長・教授

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 廣渡 清吾 | 東京大学社会科学研究所・教授              |
| 滝沢 正  | 上智大学法学部・教授                  |
| 中村 民雄 | 東京大学社会科学研究所・教授              |
| 須網 隆夫 | 早稲田大学法学部・教授                 |
| 郡司 篤晃 | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科・教授    |
| 大藤 紀子 | 独協大学法学部助教授                  |
| 有賀 貞  | 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科・教授 |
| 安部 圭介 | 成蹊大学法学部助教授                  |
| 佐藤 義明 | 広島市立大学 広島平和研究所 助手           |
| 尹 仁河  | 聖学院大学基礎総合教育部・専任講師           |

- (1) 2003年5月16日 「ヨーロッパ市民は何語で政治を語れるか？——政治の言語と言語の政治」【参加者9名】  
中村 民雄（東京大学社会科学研究所教授）
- (2) 2003年7月11日 「EUにおける憲法条約制定の意義」【参加者9名】  
須網 隆夫（早稲田大学法学部教授）
- (3) 2003年10月10日 「EUの東方拡大とそれに関連する問題——EUはどこまで拡大するか」【参加者11名】  
鈴木 輝二（東海大学教授）
- (4) 2004年2月20日 「EUにおける難民・移民法の共同体化」【参加者11名】  
広渡 清吾（東京大学教授）
- (5) 2004年5月28日 「主権・国民・民族・EUとロシア」【参加者13名】  
渋谷謙次郎（神戸大学大学院教授）
- (6) 2004年7月11日 「EU憲法とポーランド」【参加者15名】  
鈴木 輝二（東海大学教授）
- (7) 2004年10月8日 「欧州憲法条約 憲法か？ 条約か？ それとも…？」【参加者13名】  
中村 民雄（東京大学社会科学研究所教授）
- (8) 2005年5月13日 「EUにおける言語問題」【参加者11名】  
大木 雅夫（聖学院大学大学院教授）
- (9) 2005年7月1日 「二重の立憲主義再考——アメリカ法の視座」【参加者13名】

安部 圭介 (成蹊大学助教授)

- (10) 2005年9月20日 「国際人道法と国際人権法——欧州人権裁判所の判例を通して——」【参加者12名】

尹 仁河 (聖学院大学基礎総合教育部特任講師)

- (11) 2005年10月21日 「フランスによる欧州連合憲法条約の否決——国内的側面——」【参加者10名】

滝沢 正 (上智大学法学部教授)

「欧州憲法条約の検討——主権・立憲主義・民主主義の観点から——」

須網 隆夫 (早稲田大学法学部教授)

- (12) 2005年11月25日 「ヨーロッパ社会モデル——現状と課題」【参加者11名】

ハラルト・コンラット (ドイツ・日本研究所学術研究員／フリードリヒ・エーベルト財団日本代表)

- (13) 2006年3月3日 「EU競争法の動向——近時の改正を中心として」【参加者11名】

多田 英朗 (東洋大学法学部専任講師)

## 9 カウンセリング研究

### 〈研究組織〉

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 平山 正実 | 聖学院総合研究所客員教授・研究代表                |
| 藤掛 明  | 聖学院大学総合研究所専任講師・代表補佐              |
| 賀来 周一 | キリスト教カウンセリングセンター相談所長             |
| 伊藤 秀子 | JAL (日本航空) 健康保険組合メンタルヘルス講師 健康心理士 |
| 村上 純子 | 学校カウンセラー 臨床心理士                   |
| 秋山 淳子 | 北千住旭クリニック 臨床心理士                  |
| 窪寺 俊之 | 関西学院大学神学部教授 04年度より               |

## ①キリスト者のメンタルヘルス研究

### 2003年度

- (1) 2003年12月17日 「キリスト者のメンタルヘルス——家族をめぐる症例」

【参加者5名】

平山 正実（聖学院大学総合研究所客員教授）

藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）

賀来 周一（キリスト教カウンセリング相談所長）

### 2004年度

- (1) 2004年7月30日 「神学生の意識調査」【参加者10名】

高橋 克樹（豊島岡教会牧師・日本聖書神学校総務部長）

平山 正実（聖学院大学総合研究所客員教授）

藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）

### 2005年度

- (1) 2005年6月6日 「神学生の心理研究——アンケート結果の一次報告」

【参加者5名】

藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）

## ②教会心理研究

### 2003年度

- (1) 2003年9月25日 「教会における人格障害の事例について」【参加者9名】

藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）

- (2) 2004年1月29日 「信徒家族が死別体験をしたときの牧師としてのケア」

【参加者11名】

岩井 基雄（清瀬福音自由教会牧師）

### 2004年度

- (1) 2004年5月20日 「牧師のメンタルヘルス」【参加者12名】

猪野 正道（上尾福音教会牧師）

- (2) 2004年9月2日 「主管牧師交代によって生じた問題」【参加者11名】

杉崎 弘（桐生キリスト教会牧師）



- (3) 2004年11月25日 「牧師と信徒のコミュニケーションギャップについて」  
【参加者9名】  
根田 祥一（百万人の福音 編集長）
- (4) 2005年2月24日 「女子中学生（不登校）の教会内における問題行動への  
対処について」【参加者9名】  
野瀬裕志（川越福音自由教会牧師）

#### 2005年度

- (1) 2005年6月2日 「牧師がカウンセラーを利用するときにおきる諸問題」  
【参加者11名】  
藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）
- (2) 2005年9月8日 「結婚生活に問題を抱えている夫婦への教会について」  
【参加者9名】  
高橋 正則（浦和福音自由教会副牧師）
- (3) 2005年12月8日 「牧師としての諸経験Ⅰ」【参加者10名】  
坂野 慧吉（浦和福音自由教会牧師）
- (4) 2006年2月2日 「牧師としての諸経験Ⅱ」【参加者8名】  
坂野 慧吉（浦和福音自由教会牧師）

### ③ 非行臨床研究

#### 2003年度

- (1) 2003年5月31日 「非行事例の捉え方とその記録方法について」【参加者5  
名】  
藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）
- (2) 2003年6月28日 「行為障害の診断を受けた16歳・男子非行少年の事例」  
【参加者5名】
- (3) 2003年8月30日 「スクールカウンセラーによる学校でのケースマネー  
ジメント～ストーカーのように女性教師に迷惑メールを  
送り続けた男子中学生の事例」【参加者7名】  
内田 浩之（東亜大学大学院）
- (4) 2003年10月25日 「『出会い系サイト』で知り合った女性に対する性犯を

起こした事例」【参加者6名】

(5) 2003年12月6日 「改善が見られないまま終局した事例」【参加者6名】

(6) 2004年2月21日 「最近の非行から見えてくるもの」【参加者6名】  
澤田 豊（東京拘置所）

2004年度

(1) 2004年7月10日 「『いきなり型』の重大事犯に至った高校生の事例」【参加者6名】

池田 忠義（東北大学文学部講師）

(2) 2004年11月20日 「保護観察事例報告一」  
【参加者6名】

2005年度

(1) 2005年7月2日 「事例群全体の検討1」【参加者6名】

澤田 豊（浦和少年鑑別所所長）

(2) 2005年8月27日 「事例群全体の検討2」【参加者5名】

澤田 豊（浦和少年鑑別所所長）

(3) 2005年11月12日 「事例群全体の検討3」【参加者5名】

澤田 豊（浦和少年鑑別所所長）

(3) 2006年1月28日 「各種病理と非行・犯罪臨床」【参加者6名】

藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）

④描画テスト研究

2003年度

(1) 2003年5月21日 「大学生データと発達調査」【参加者5名】

佐々木千鶴子（東北福祉大学）

(2) 2003年7月25日 「摂食障害患者の『雨の中の私』画」【参加者6名】

吉村 由未（相模原児童相談所）

(3) 2003年9月19日 「屋内画の『雨の中の私』画」【参加者4名】

藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）

- (4) 2003年11月28日 「教育相談事例の『雨の中の私』画1」【参加者6名】  
玉置 信子（中学・高校スクールカウンセラー）
- (5) 2004年1月9日 「教育相談事例の『雨の中の私』画2」【参加者6名】  
玉置 信子（中学・高校スクールカウンセラー）
- (6) 2004年3月5日 「病院臨床で行っている『雨の中の私』画」【参加者6名】  
佐藤 徹也（埼玉県立精神保健福祉センター）

#### 2004年度

- (1) 2004年6月18日 「凶悪事件をおこした14歳非行少年の『雨の中の私』画」  
【参加者6名】  
藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）  
「描画課題としての雨の中の私画の有効性」  
吉村 由未（相模原児童相談所）

#### ⑤ 発達障害研究

##### 2004年度

- (1) 2004年5月27日 「なぜ今高機能広汎性発達障害なのか」【参加者6名】  
藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）  
竹淵 香織（聖学院大学学生相談室インターカー・カウンセラー）
- (2) 2004年7月27日 「相談事例より」【参加者5名】  
竹淵 香織（聖学院大学学生相談室インターカー・カウンセラー）
- (3) 2004年10月21日 「高機能広汎性発達障害とは」【参加者5名】  
竹淵 香織（聖学院大学学生相談室インターカー・カウンセラー）  
藤掛 明（聖学院大学総合研究所専任講師）
- (4) 2005年1月20日 「アスペルガー症候群とは？」【参加者6名】  
橋本 貴裕（聖学院大学学生相談室カウンセラー）

2005年度

- (1) 2005年11月24日 「最近の事例紹介」【参加者4名】  
竹淵 香織（聖学院大学学生相談室インターカー・カウンセラー）
- (2) 2006年3月8日 「発達障害者の視点を知る（アスペルガー症候群と描画）」【参加者3名】

## 10 ピューリタニズム研究

ピューリタニズム本来の教会と神学を焦点にして、一次資料の解明やスコットランドやアングリカニズムとの関連をも視野に入れ、本学設立の理念を深める研究をすすめ、日本におけるピューリタニズム研究のセンターを目指す。

### 〈研究組織〉

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 松谷 好明 | 聖学院大学総合研究所特任助教授           |
| 大木 英夫 | 聖学院大学総合研究所所長              |
| 大澤 麦  | 首都大学東京教授                  |
| 佐野 正子 | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科専任講師 |
| 今関 恒夫 | 同志社大学文学部教授                |
| 高 萬松  | 聖学院大学総合研究所特任研究員           |
| 青木 道彦 | 川村学園女子大学非常勤講師             |
| 森田美千代 | 聖学院大学総合研究所助教授             |
| 梅津 順一 | 聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授       |
| 山本信太郎 | 立教大学大学院                   |

- (1) 2003年5月19日 「イングランド国民のための第一弁護論および第二弁護論」【参加者28名】  
大木 英夫（聖学院大学総合研究所所長）  
新井 明（和学園大学学長）  
野呂 有子（日本大学教授）
- (2) 2003年6月30日 「バクスターと『愛の共同体』」【参加者15名】

梅津 順一（聖学院大学教授）

- (3) 2003年9月30日 「アングリカニズムと VIA MEDIA —— リチャード・フッカーのピューリタニズムの理解を中心に」【参加者12名】
- (4) 2004年2月10日 「ニューイングランド・ピューリタニズムご回心中心的福音主義——大覚醒期を中心に——」【参加者11名】  
増井志津代（上智大助教授）
- (5) 2004年5月31日 「政教分離とピューリタニズム」【参加者22名】（「イギリス・アメリカ文化の学際研究」と合同で開催。）  
大西 直樹（国際基督教大学教授）
- (6) 2004年7月12日 「ジョン・オウエンのCongregationalismについて——1650年代を中心に」【参加者11名】  
佐野 正子（聖学院大学専任講師）
- (7) 2004年7月14日 「大覚醒とアメリカの宗教伝統」【参加者16名】（「イギリス・アメリカ文化の学際研究」と合同で開催。）  
森本あんり（国際基督教大学教授）
- (8) 2005年1月18日 「17世紀イングランドにおける教会統治論争の研究——ウェストミンスター教会統治規程およびサヴォイ綱領のテキストとコンテキストを中心に」【参加者17名】  
松谷 好明（聖学院大学総合研究所特任助教授）
- (9) 2005年5月30日 「非国教主義プロテスタント成立の神学的意図——バプテスト派創設を中心にして」【参加者15名】  
森島 牧人（関東学院大学教授）
- (10) 2005年7月12日 「ホップズとピューリタニズム」【参加者18名】  
田中 浩（聖学院大学総合研究所客員教授）
- (11) 2005年9月27日 「トマス・カートライトについて」【参加者18名】  
松谷 好明（聖学院大学総合研究所特任教授）
- (12) 2005年11月29日 「P・T・フォーサイスにおける歴史の神学——神義論を中心として」（公共神学研究会と共同開催）【参加者15名】  
高 萬松（聖学院大学総合研究所特任研究員）

## 11 〈児童〉における総合人間学の試み

### 〈研究組織〉

|       |  |        |
|-------|--|--------|
| 村山 順吉 | 聖学院大学人間福祉学部児童学科教授                                    | 研究代表   |
| 菅原 啓州 | 聖学院大学総合研究所特任講師                                       | 研究代表補佐 |
| 森下みさ子 | 聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授                                   | 研究代表補佐 |
| 窪田 恭子 |  |        |
| 鈴木 明  | 聖学院大学人間福祉学部児童学科教授（～04）<br>大東文化大学スポーツ・健康科学部教授（05～）    |        |
| 石津 靖大 | 聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授                                   |        |
| 山田麻有美 | 聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授                                   |        |
| 松本 祐子 | 聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授                                   |        |
| 喜田 敬  | 聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授                                   |        |
| 相川 徳孝 | 聖学院大学人間福祉学部児童学科専任講師                                  |        |
| 中田 美子 | 聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師（～04）<br>聖学院大学人間福祉学部児童学科非常勤講師（05） |        |

### 2004年度

- (1) 2004年4月1日 「階段の途中で——身体性についての試論」【参加者12名】  
菅原 啓州（聖学院大学総合研究所特任講師）
- (2) 2004年4月21日 「〈子ども〉をめぐる研究の視角」【参加者10名】  
森下みさ子（聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授）
- (3) 2004年6月23日 「9つの色」【参加者17名】  
駒形 克巳（グラフィックデザイナー・絵本作家）
- (4) 2004年11月24日 「サイコドラマとは何か」【参加者10名】  
山田麻有美（聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授）

### 2005年度

- (1) 2005年6月22日 「『ものぐさ太郎』考」【参加者14名】  
菅原 啓州（聖学院大学総合研究所特任講師）  
「『保』の字形について」  
石津 靖大（聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授）
- (2) 2006年1月18日 「持ち歩く現象をめぐって」【参加者13名】

### ラウンドテーブル

森下みさ子（聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授）

山田麻有美（聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授）

松本 祐子（聖学院大学人間福祉学部児童学科助教授）

(3) 2006年3月14日 「東横短大附属子育て支援センター『ピッピ』見学および解説」【参加者9名】

小川 清美（東横学園女子短期大学教授）

## 12 国際金融研究

### 〈研究組織〉

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 速水 優  | 聖学院大学総合研究所全学教授・研究代表 |
| 真野 輝彦 | 聖学院大学総合研究所特任教授・代表補佐 |
| 阿久戸光晴 | 聖学院大学学長             |
| 柴田 武男 | 聖学院大学政治経済学部教授       |
| 石部 公男 | 聖学院大学政治経済学部教授       |
| 梅津 順一 | 聖学院大学政治経済学部教授       |
| 大森 達也 | 聖学院大学政治経済学部教授       |
| 富沢 賢治 | 聖学院大学政治経済学部教授       |
| 鈴木真実哉 | 聖学院大学政治経済学部助教授      |
| 阿部 忠  | ホッカイエムアイシー(株)代表取締役  |
| 中島 智  | 中央会計事務所所長           |
| 大井 洋文 | 埼玉経済同友会専務理事         |
| 太田 篤實 | 上尾商工会議所専務理事         |

### 2005年度

(1) 2005年5月7日 「速水優著『強い円，強い経済』をめぐって」【参加者26名】

速水 優（聖学院大学全学教授，前日銀総裁）

真野 輝彦（聖学院大学総合研究所特任教授）

柴田 武男（聖学院大学政治経済学部教授）

- (2) 2005年5月18日 計画会【参加者11名】  
速水 優（聖学院大学全学教授，前日銀総裁）  
真野 輝彦（聖学院大学総合研究所特任教授）
- (3) 2005年6月15日 「金融緩和政策は有効か—両建て経済論からの疑問—」  
【参加者17名】  
柴田 武男（聖学院大学政治経済学部教授）
- (4) 2005年7月20日 「Globalization とわが国金融システムの変化」【参加者  
16名】  
真野 輝彦（聖学院大学総合研究所特任教授）
- (5) 2005年9月21日 「21世紀 国際金融の現状と未来」【参加者15名】  
鈴木真実哉（聖学院大学政治経済学部教授）
- (6) 2005年10月19日 「対外・内外直接投資から見た日本経済の国際化—円  
の国際化を考える—」【参加者18名】  
大森 達也（聖学院大学政治経済学部教授）
- (7) 2005年11月16日 「市場統合と社会統合— EUの事例を中心に—」【参  
加者14名】  
富沢 賢治（聖学院大学コミュニティ政策学科教授）
- (8) 2005年12月21日 「中国経済の問題点」【参加者17名】  
石部 公男（聖学院大学コミュニティ政策学科教授）
- (9) 2006年1月11日 「金融市場と情報—市場倫理の観点から」【参加者13  
名】  
梅津 順一（聖学院大学政治経済学部教授）
- (10) 2006年2月15日 「市場経済の倫理的基礎づけ—現代経済倫理の根本問  
題—」【参加者14名】  
阿久戸光晴（聖学院大学学長）

### 13 イギリス・アメリカの文化に関する学際的研究

イギリス・アメリカの文化の諸相を理解することを目的として、特定のテーマのもとに、多彩な視点、手法を用いた学際的な拡がりをもつ研究を行った。2003年度は、「イギリス・アメリカの文化における」とをテーマとし、2004年



度は、「イギリス・アメリカの歴史」に重点を置いた研究となった。

〈共同研究プロジェクト・チームの構成員・協力者の所属及び氏名〉

古屋 安雄 聖学院大学院教授・研究代表  
森田美千代 聖学院大学総合研究所助教授  
柴田 史子 聖学院大学人文学部欧米文化学科助教授  
ディーン・ウォレン・サザデン 聖学院大学総合研究所専任講師  
近藤 存志 聖学院大学人文学部欧米文化学科専任講師

### 研究会の開催と研究報告

- 第1回 2003年4月14日「なぜ、アングロ・アメリカか？」報告者 古屋安雄  
研究会報告 森田美千代 聖学院大学総合研究所 Newsletter13-1, p.35.
- 第2回 2003年7月7日「アメリカ外交の論理と心理——伝統と現状」報告者 有賀 貞  
研究会報告 佐藤貴史 Newsletter13-3,p.22
- 第3回 2003年10月27日「イギリスにおける文化とキリスト教」報告者 山形 和美  
研究会報告 嶋田陽子 Newsletter13-4,p.24
- 第4回 2003年12月15日「『市民宗教』を通して考えるアメリカ政教関係の歴史と課題」報告者 佐藤 圭一  
研究会報告 佐藤貴史 Newsletter13-4, p.17。  
研究成果 佐藤 圭一「アメリカにおける『市民宗教』の機能と史的展開」『聖学院大学総合研究所紀要』第29巻, 110-139頁。
- 第5回 2004年5月31日「政教分離とピューリタニズム」報告者 大西直樹  
研究会報告 小林雅博 Newsletter14-2, p.17。  
研究成果 大西直樹「初期アメリカにおける政教分離と信教の自由」『聖学院大学総合研究所紀要』32号, 197頁
- 第6回 2004年7月14日「大覚醒とアメリカの宗教伝統」報告者 森本あんり  
研究会報告 小林 雅博 Newsletter14-4, p.10  
研究成果 森本あんり「ジョナサン・エドワーズと『大覚醒』」『聖学

院大学総合研究所紀要』31号, 340頁。

第7回 2004年10月18日「理性と経験の時代の美術, 建築, デザイン」報告者 近藤 存志。

研究会報告 嶋田陽子 Newsletter14-4, p.11

第8回 2005年1月17日「ヘンリー・ジェームズのアイデンティティ」報告者 藤野 早苗

研究会報告 嶋田 陽子 Newsletter14-5, p.36

14 ジョン・ロックの「政治哲学」とそれを支える福音理解 (2003年度終了)  
—ロック『パウロ書簡注解』の翻訳とロック思想の再構成  
(第1期 1995～1997年, 第2期 1998年～2000年, 第3期 2001年～2003年)

2003年度は『パウロ書簡注解』のうち, 「エペソ人への手紙注解」の翻訳と解釈に取り組んだ。

2003年度で1995年度に開始された本プロジェクトは終了し, 後日, この研究成果は, ジョン・ロック『パウロ書簡注解』として聖学院大学出版会から刊行される。

〈研究組織〉

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 大澤 麦  | 聖学院大学総合研究所助教授   |
| 野呂 有子 | 日本大学文理学部教授      |
| 相澤 一  | 聖学院大学特任講師       |
| 川添未央子 | 聖学院大学政治経済学部専任講師 |

- ① 2003年6月3日 ジョン・ロックの「エペソ人への手紙注解」大澤 麦
- ② 2003年7月8日 ジョン・ロックの「エペソ人への手紙注解」大澤 麦
- ③ 2003年7月29日 ジョン・ロックの「エペソ人への手紙注解」大澤 麦
- ④ 2003年10月30日 ジョン・ロックの「エペソ人への手紙注解」大澤 麦
- ⑤ 2004年1月17日 ジョン・ロックの「エペソ人への手紙注解」大澤 麦

## 15 人口減少期における自治体行政のあり方に関する調査研究 (2002～2003年度)(2003年度終了)

### 〈研究組織〉

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 平 修久  | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科教授   |
| 富沢 賢治 | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科教授   |
| 西浦 定継 | 明星大学理工学部土木工学科助教授          |
| 児玉 博昭 | 白鷗大学法学部専任講師               |
| 馬場 健  | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科専任講師 |
| 桑野 斉  | 財団法人地方自治研究機構研究員           |
| 金城 雄一 | 財団法人地方自治研究機構研究員           |
| 渡辺 邦雄 | 富士見市役所建築部                 |
| 荒井 照男 | 北本市役所総務部企画財政課             |
| 諸 敦夫  | 秩父市役所経済部工業振興課             |

- ① 2003年4月40日 人口減少に対する自治体の意識の把握及び分析
- ② 2003年7月4日 人口減少に伴う行政課題の整理，体系化
- ③ 2003年10月30日 行政課題への取り組み方策の検討
- ④ 2004年1月29日 研究のまとめ

### (3) 「聖学院大学総合研究所紀要」目次

(年間3号発行, A5判並製, 27号から35号まで)

#### 紀要27号 (570頁)

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 序 —夢のデモクラティックな連帯—                      | 大木英夫                  |
| 『哲学者と法学徒との対話』を読む                       | 田中浩                   |
| 基調講演 東アジアの平和と民主主義                      | 池明観                   |
| シンポジウム 東アジアの平和と民主主義                    | 池明観他                  |
| 二一世紀の東北アジアとキリスト教                       | 盧貞鉉/洛雲海 訳             |
| GHQの宗教政策について                           | 深井智朗                  |
| イギリス風景画における「自然」の表現                     | 荒川裕子                  |
| ホーレス・ブッシュネルの反女性参政権論                    | 森田美千代                 |
| 科学と技術の市場についての神学史的考察                    | 深井智朗                  |
| 「宗教の市場化」というメタファーとゼクテ論                  | 深井智朗                  |
| 非行と家族機能との関連について                        | 藤掛明                   |
| フィリップス・ファン・ライデンの『君主国家論』における都市観         | 田中史高                  |
| 高倉徳太郎神学における「福音的キリスト教」                  | 崔炳一                   |
| 変動する社会環境と自治体改革                         | 檜森隆一                  |
| Developing a Criterion-referenced Test | Mehran Sabet          |
| Teaching Listening In EFL Classes      | Dean Warren Sotherden |
| 2002年度修士論文テーマ一覧                        |                       |

#### 紀要28号 (456頁)

|   |      |
|---|------|
| 序文 実にアイロニカル—今の日米関係                      | 大木英夫 |
| 欧州連合(EU)とNATOの東方への拡大による欧州図の変化           | 鈴木輝二 |
| 「憲法的伝統」と超憲法性 (supra-constitutionnalité) | 大藤紀子 |
| シンポジウム・政令指定都市の誕生と今後の課題                  | 森田朗他 |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| H・リチャード・ニーバーのアメリカ文化論   | 安 酸 敏 真               |
| いわゆる「政治的なもの」と終末論   | 深 井 智 朗               |
| トマソン・コレクションの全体像  | 松 谷 好 明               |
| 使い果たされたパラダイム   | アンドレアス・ゲーベル/森川剛光 訳    |
| 【解説】パラダイムはパラダイムの限界を診断することが出来るか？                              | 土 方 透                 |
| ホーレス・ブッシュネル『キリスト教養育』第八章翻訳                                    | 森 田 美千代               |
| フォーサイスとエイレナイオス   | 高 萬 松                 |
| フランツ・ローゼンツヴァイクの観念論批判   | 佐 藤 貴 史               |
| Internationalizing Education In Japan                        | Dean Warren Sotherden |
| The Shifting paradigm:Towards a person-centered ESL syllabus | Clifford Gibson       |
| Sociopsychological Factors of Bilingual Development          | Roberto Rabbini       |

#### 紀要29号 (444頁)

|  |                        |
|--|------------------------|
| 巻頭言 グローバル化社会での信頼の基本  | 阿久戸 光 晴                |
| グローバル化と多文化主義の中のアメリカ  | 有 賀 貞                  |
| リスポンシブル・グローバリゼーション   | 大 木 英 夫                |
| 二一世紀のキリスト教とグローバリゼーション  | シュー土戸ポール               |
| 九鬼周造におけるニヒリズムと目的論  | 田 中 久 文                |
| アメリカにおける「市民宗教」の機能と史的展開   | 佐 藤 圭 一                |
| ジョン・ロック著『エペソ人への手紙注解』   | 相澤 一・大澤 麦・川添美央子・野呂有子 訳 |
| ウィリアム・クラーク卿手書き文書 (1640-1664) への手引き (翻訳)                        | 松 谷 好 明 訳              |
| マルティン・ラーデ『キリスト教世界』と公共神学の課題                                     | クリストフ・シュベール/松谷好明 訳     |
| マルティン・ラーデとカール・バルト——対話する神学者たち                                   | クリストフ・シュベール/松谷好明 訳     |
| 人口減少と行政などの対応について   | 平 修 久                  |
| H. Richard Niebuhr and John Howard Yoder1: Theology of Culture | Atsuyoshi Fujiwara     |

The Perpetuation Of Christian Beliefs Through The Amish In America

Dean Sotherden

Twenty First Century Christianity and Globalization

Paul Tsuchido Shew

紀要29号別冊 (290頁)

|  |                   |     |
|--|-------------------|-----|
| 序  | 大澤                | 麦   |
| グローバリゼーション時代におけるパブリック・セオロジーと<br>ポリティカル・エコノミー | マックス・L・スタックハウス/相澤 | 一 訳 |
| 近代「市民」の文化的基礎                                 | スティーヴン・カールバーク/大澤  | 麦 訳 |
| 現代アメリカにおける市民社会, 国家および宗教                      | マックス・L・スタックハウス/相澤 | 一 訳 |
| アメリカにおける市民的領域                                | スティーヴン・カールバーク/大澤  | 麦 訳 |
| アメリカの市民と日本の「市民」                              | 古矢                | 旬   |
| 国際シンポジウム「市民」とは何か                             | マックス・L・スタックハウス    | 他   |
| 国際セミナー「市民」とは何か                               | マックス・L・スタックハウス    | 他   |

紀要30号 (464頁)

巻頭言「国籍離脱の自由」の反語的意義

—東アジア社会のグローバル化の源流との関連において—

阿久戸 光 晴

グローバリゼーションと国際金融問題 速水 優・眞野 輝彦

国際シンポジウム 東アジアの平和と民主主義

—北朝鮮問題の役割と日中韓の役割—

朱 建栄・康 仁徳・加藤 洋一・小田川 興

EUにおける移民・難民法の動向

—「国際人流と法システム」の一考察— 広 渡 清 吾

キリスト教信仰を有する日本人夫婦の葛藤に関する臨床的検討

— KJ 法および双対尺度法による問題点の抽出—

藤掛 明・平山 正実

ニューイングランド・ピューリタニズムと回心中心的福音主義

— 第一次大覚醒へ向けて —

増井志津代

二本の木は一本の木とされた!?

— 長老派と会衆派による《合意項目》(The Heads of Agreement, 1691)

の歴史神学的考察 —

松谷好明

フランツ・ローゼンツヴァイクの苦悩

— キリスト教, ユダヤ教, そして世界史 —

佐藤貴史

ジョン・ウェスレーにおける心の宗教

— 義認と聖化をめぐる —

松本靖子

わが国の法人税法における役員賞与課税に関する一考案

菅原美帆

Gaining a Better Understanding of Our Students

Mehran Sabet

The Nineteenth-Century New England Religious Thinkers' Reactions

to Friedrich .E. Schleiermacher

Michiyo Morita

## 紀要31号 (632頁)

序文 敗戦から六十年目に当たり「日本の神学」と戦後日本の問題

大木英夫

グローバリゼーションの政治

坂本義和

グローバリゼーション時代の国際安全保障

岩島久夫

シンポジウム 官から民へ

中井検裕他

階段の途中で — 身体性についての試論

菅原啓州

植民地朝鮮のメディアに表れた日本及び日本人

小田川興

シンポジウム キリスト者と親子関係

佐藤誠他

講演会 アメリカの対北朝鮮政策

ヤン・C・キム他

鈴木大拙「日本的靈性」をめぐる

田ノ倉亮爾

J・エドワーズと「大覚醒」

森本あんり

国家観の変遷

大木雅夫

平和の倫理

近藤勝彦

A Christ-centered Community

Dean Warren Sotherden

Evaluating a Servant Organization in the Japanese Context

Evert Osburn

THE CHALLENGE OF CYRUS AUGUSTUS BARTOL

TO THE RELIGIOUS THOUGHT OF RALPH WALDO EMERSON

Michiyo Morita

小崎弘道著「系統神学講義」について  
系統神学講義  
2003年度博士論文・修士論文テーマ一覧

鶴沼裕子  
小崎弘道

紀要32号 (736頁)

巻頭言 寛容の根拠

阿久戸 光 晴

時代としての「グローバリゼーション」

伊豫谷 登士翁

経済におけるグローバリズム

伊東 光晴/速水 優/眞野 輝彦/大木 英夫

多元的憲法秩序としてのEU

中 村 民 雄

NPMにおける協働の位置づけ

宮 脇 淳

大学のまちづくり活動

富 沢 賢 治

初期アメリカにおける政教分離と信教の自由

大 西 直 樹

シンポジウム キリスト者と人間関係

—心の悩みを聴く—

古 川 第一郎他

ロシアとEU

渋 谷 謙次郎

神学における「歴史」の問題

深井 智朗・藤原 淳賀

心理療法家養成に関する日英比較

山 田 麻有美

ケンブリッジ綱領(一六四八年)

松 谷 好 明 訳

勝海舟とその周辺

河 上 民 雄

超越を認識するための人間学的な前提

深 井 智 朗

マルティン・ケーラーにおける義認論と伝道の神学

長 山 道

共有特許権の審決取消訴訟の原告適格

堀 竹 学

女性公教育とジェンダー①

武 藤 健 一

山上憶良とヨブに見る神義論

芦 名 裕 子

H. R. Niebuhr の価値論

竹 井 潔

The Complexities Of Learning English As A Foreign Language

Dean Warren Sotherden



The Priority of Listening in the Elementary School

Brian Byrd 他

An Interpretation of the Confrontation Between Revivalist Joel Hawes

and Alleged Anti-Revivalist Horace Bushnell

Michiyo Morita

紀要33号 (768頁)

|  |                    |
|--|--------------------|
| 巻頭言 グローバリゼーションの両義性   | 阿久戸 光 晴            |
| グローバリゼーションと中国の対応   | 戦 憲 斌              |
| グローバリゼーションと日本経済  | 眞 野 輝 彦            |
| グローバリゼーションと情報  | 加 藤 哲 郎            |
| シンポジウム 東アジアの平和と民主主義  | 孔 魯 明 他            |
| ヘンリー・ジェイムズの軌跡  | 藤 野 早 苗            |
| 北朝鮮の「七・一経済措置」と最近動向   | 康 仁 徳              |
| 表現されるものと私秘なるものをめぐる思索                                       | 清 水 正 之            |
| バグスターにおける神政政治の構想   | 梅 津 順 一            |
| 日本近代思想の問題とキリスト教  | 近 藤 勝 彦            |
| 有神論と無神論との間で十字架につけられた者の神学の基礎付け                              | 深 井 智 朗            |
| イギリス国会議事堂のゴシック   |                    |
| チャールズ・バリーとA・W・N・ピュージンの協働                                   | 近 藤 存 志            |
| ナント王令  | 和 田 光 司            |
| 〈9・11〉論——「技術化」・アトム化した社会は自殺へ向かう                             |                    |
| クリストファ・ポールマン/石川裕一郎 訳                                       |                    |
| 権力と「第三のパラドクス」  | ミヒャエル・シュルツ/名部圭一 訳  |
| 【解説】近代社会とパラドクス   | 土 方 透              |
| 女性公教育とジェンダー②   | 武 藤 健 一            |
| フォーサイスにおけるコングリゲーションナリズム                                    | 森 島 豊              |
| H.Richard Niebuhr and John Howard Yoder 2:                 |                    |
| Transformation Revisited for Theology of Culture           | Atsuyoshi Fujiwara |
| Second Language Users and the Semantic Web                 | Jason Byrne        |
| Keeping A Journal Of Observations Of Listening Experiences |                    |
| When Learning A Language                                   | Dean Sotherden     |

Preparing for Junior High English: Basic Grammar in a Communicative Context  
— Plus Fun — in the Upper Elementary School English Program

Brian Byrd 他

A Preliminary Assessment of Seigakuin University as a Learning Organization

Evert Osburn

紀要34号 (608頁)

序 大木英夫

グローバリゼーションへの対抗理論 渡辺雅男

ホップズにおける「政治と宗教」 田中浩

シンポジウム 悲嘆と信仰 関正勝・鶴沼裕子・平山正実・藤掛明

シンポジウム これからの都市再生

月尾嘉男・北川正恭・平修久・穂坂邦夫・田中栄治・佐々木信夫

シンポジウム 『強い円・強い経済』をめぐる

速水優, 柴田武男, 眞野輝彦

対北朝鮮交渉の研究 — 南北対話30年の教訓 康仁徳

EU憲法体制と新規加盟国 鈴木輝二

フランスによる欧州連合憲法条約の否決 — 国内的側面 — 滝沢正

宗教とソーシャルワーク — ニーバー著 CRSW の考察 — 西川淑子

表現主義者としての初期カール・バルト 深井智朗

イギリスのプライマリケアに導かれた「第三の道」制度改革 郡司篤晃

F・A・ハイエクにおける自由と進歩の概念 谷口隆一郎

女性公教育とジェンダー③ 武藤健一

Testimonies Of Students At An American University

Concerning Their Experiences With Glossolalia Dean Warren Sotherden

Syllabus Design and Textbook Selection for Primary School English Programs

Mehran Sabet

高校、大学における英語教科書の分析 — 中国の場合 — (1)

市川 研

紀要34号別冊「第二次世界大戦後の教育と宗教」(216頁)

序文

基調講演 第二次世界大戦後の日本の教育と宗教 田丸徳善  
「第二次世界大戦後の日本の教育と宗教」へのレスポンス

ウィリアム・ジョンソン・エバレット

教育、宗教、グローバリゼーション フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ  
シンポジウム 第二次世界大戦後の教育と宗教

ウィリアム・ジョンソン・エバレット 他

総合研究所活動報告2003年—2005年

紀要35号(728頁)

序 阿久戸光晴

グローバル化と民主政の理論的諸潮流 中谷義和

非国教主義プロテスタントの成立とその神学的意図 森島牧人

『国学の他者像』をめぐって 清水正之他

シンポジウム スピリチュアルケアと心の援助 窪寺俊之他

理論言語学の動向 福井直樹

国際人権法と国際人道法 尹仁河

ピューリタニズムの父、トマス・カートライト 松谷好明

ジョン・オウエンにおける「キリストの国」論とピューリタン革命

佐野正子

新約聖書における平和——公共神学としての平和

ウィラード・M・スワトレー/藤原淳賀 訳

P・T・フォーサイスにおける歴史の神学 高萬松

H. R. Niebuhr の価値論 竹井潔

十九世紀ロシアの宗教思想家ニコライ・フォードルフの生涯とその思想

飯島康夫

日系アメリカ人の再定住政策 増田直子

UPIテストからみる学生の不安傾向の理解 竹淵香織

教会外のアラトリオ ― 世紀の転換期における音楽と宗教の関係について

ハンス・ヴェルナー・ダノフスキー/瀬尾文子 訳

解説/深井智朗・瀬尾文子

P・T・フォーサイスにおけるF・D・モーリスの影響 森 島 豊

女性公教育とジェンダー④完 武 藤 健 一

Introducing English in Japanese elementary schools

A look at the current situation and a practical step forward:

Enjoying written English in the lower grades Brian Byrd 他

Communication Strategies And Characteristics

Of Skillful Non-native English Speakers Dean Warren Sotherden

プロテスタント・キリスト教神学校学生における

実践神学学習の認識および精神衛生についての調査報告

藤掛 明・平山正実

2004年度博士論文・修士論文テーマ一覧

#### (4) 「聖学院大学総合研究所 Newsletter」 目次

(B5判, 年5回発行, 13巻から15巻)

##### Vol.13-1 (40頁)

「情報化社会」から「情報社会」へ? 標 宣男

リーダーが脱線するとき 平山正実・藤掛 明

大都市部における高齢地域ケアシステムの構築 天本 宏

行政と市民の協働——労働者協同組合の事例 富沢 賢治

描画テスト研究会報告 藤掛 明

なぜアングロ・アメリカか? 森田美千代

総合研究所 News

『イングランド国民のための第一弁護論および第二弁護論』をめぐって

高 萬松

バクスターにおける「愛の共同体」 高 萬松

総合研究所活動報告 (2002年度)

##### Vol.13-2 (32頁)

学生起業家とホテル飛ぶチャペル 富沢賢治

自由へのアプローチ 飯坂良明

現代建築ノート アート・ヤコブセン《オックスフォード大学セント・キャサ  
リンズ・コレッジ》 近藤 存志

ワールドカップの国際的評価の発信を 西田善夫

2003年度組織神学研究センターの活動はじまる 深井智朗

共同研究「グローバルゼーション」の概要と課題 大澤 麦

コンパクト・シティ 平 修久

非行臨床研究会(第1回~第3回)報告 藤掛 明

ヨーロッパ市民は何語で政治を語るのか? ——政治の言語と言語の政治——

原田貴士

総合研究所 News

**Vol.13-3 (28頁)**

巻頭言 鶴沼裕子

企業におけるメンタルヘルス 平山正実

香亭中根淑戸野隠れん坊 菅原啓州

Stanley Hauerwas on Paul Shew

都市計画と公共性 平修久

世田谷区におけるまちづくり 平修久

アメリカ外交の論理と心理 佐藤貴史

知恵と恩寵と力 小林雅博

牧会心理研究 猪野正道

大学院・総合研究所活動報告書 金子春勇・古屋安雄

**Vol.13-4 (32頁)**

巻頭言 大木雅夫

盧武鉉政権の対北政策展望——6カ国協議のゆくえと朝鮮半島情勢 康 仁徳

シベリウス孤島の住人たち 東島 誠

コラボレーションに求められていること 長谷川英美子

加藤学園バイリンガル教育見学記 藤原真知子/ブライアン・バード

ラインホルド・ニーバーの恩寵論 久保島理恵

イギリスにおける文化とキリスト教(山形和美) 嶋田陽子

キリスト教のメンタルヘルス 花野井百合子

グローバリゼーション・多文化主義時代のアメリカ 佐藤貴史

教員活動報告 大木雅夫

教員活動報告 有賀 貞

教員活動報告 土戸 清

総合研究所 News

**Vol.13-5 (33頁)**

巻頭言「貧しい国々」 古屋安雄

まちづくりにおける合意形成のあり方 小泉秀樹

近代化とグローバリゼーション 佐藤貴史

共同研究「J・ロックの政治哲学とそれを支える福音理解」を終えて 大澤 麦  
アングリカニズムと VIA MEDIA —リチャード・フッカーの神学を中心に—  
高 萬松

「市民宗教」を通して考えるアメリカ政教関係の歴史と課題 佐藤貴史

<生命>とグローバリゼーション 嶋田陽子

抄物の漢語と日本語の変化 小林茂之

世界とロールシャッハと私 牟田隆郎

研究所 News

### Vol.14-1 (48 頁)

巻頭言 中村磐男

キリスト者とメンタルヘルス 賀来・阿久戸・平山・藤掛

The Use of the Secondary Level English Proficiency (SLEP) Test in the Seigakuin  
English Program (SEP) Evert D. Osburn

学校建築 — 保存されるものと、記憶の彼方に残りゆくもの — 永井理恵子

Enhancing vocabulary retention through the use of tasks 長坂達彦

Workshop “Attachment Dynamics and Second Language Learning for Elementary  
Children,” March 25-26, 2004. Dean Sotherden

21世紀のキリスト教とグローバリゼーション 佐藤貴史

ニューイングランド・ピューリタニズムと回心中心的福音主義 高 萬松

北朝鮮をどう解くか 小田川興

グリーンケア・ルーム年報2003年 藤掛 明

聖学院大学大学院・総合研究所教員活動報告書(2003年度) 藤掛 明・松谷  
好明

総合研究所 News

### Vol.14-2 (40 頁)

巻頭言「ある学徒のこと」 寺田正義

アテネ・オリンピックを巡って 西田善夫

イラク人質斬殺事件と韓国宣教事情 洛 雲海

カレスへの想い 清澤達夫

学生たちと共に学ぶ「アイヌ文化振興法」 高橋愛子

グローバリゼーションと国際通貨問題 佐藤貴史  
21世紀の安全保障を考える 佐藤貴史  
政教分離とピューリタニズム 小林雅博  
EUとロシア 原田貴士  
NPMにおける協働の位置づけ 平 修久  
〈子ども〉をめぐる研究の視角 森下みさ子  
H・リチャード・ニーバーにおけるラインホルド・ニーバーの歴史理解 藤原  
淳賀  
R・ニーバーについての『信仰と歴史』, H・R・ニーバーについての『信仰と  
歴史』 森島 豊  
鈴木大拙『日本的靈性』をめぐって 森島 豊  
海外新刊書紹介 藤原淳賀  
聖学院大学大学院・総合研究所教員活動報告書(2003年度) 山形和美  
総合研究所 News

#### Vol.14-3 (28頁)

巻頭言「科学と価値」 標 宣男  
神の国とキリスト教 古屋安雄  
日本における安重根に対する見方の変化 小田川興  
大正思想史をめぐるもう一つの視点 村松 晋  
グローバル化とカナダ政治 小川 洋  
志木市における市民と行政の協働 平 修久  
第3回牧会心理研究会報告 藤掛 明  
ジョン・オウエンのコングリゲーションナリズムについて 森島 豊  
グローバリゼーションの政治 嶋田陽子  
時代としての「グローバリゼーション」 佐藤貴史  
桜一日本文学史における桜花 原田貴士  
総合研究 News

#### Vol.14-4 (32頁)

巻頭言「アメリカ研究の視座」 古屋安雄  
モルトマンと純福音教会の接近 洛 雲海



聖学院小学校から見た中学校英語教育の期待 寺田正義  
宗教とグローバリゼーション 佐藤貴史  
大覚醒とアメリカの宗教伝説 小林雅博  
理性と経験の時代の美術、建築、デザイン 嶋田陽子  
「サイコドラマ」とは何か 小林雅博  
欧州憲法条約——憲法か？条約か？それとも 原田貴士  
地方自治体における「地域経営」という考え方 岩切博史  
大和市の市民活動推進条例及び協働事業 平 修久  
神学生の意識調査 猪野正道  
描画テスト研究会報告 吉村・藤掛  
大学における発達障害の学生への支援 竹淵香織  
大学院・総合研究所教員活動報告 郡司篤晃  
紹介『公共神学と経済』 西谷幸介  
研究所 News 国際シンポジウム・アンケート

#### Vol.14-5 (52頁)

巻頭言 大木雅夫  
宗教とグローバリゼーション 中野 毅  
Report on the Katoh Gakuen Symposium Mehran Sabet  
聖学院小学校・中学校・女子聖学院の英語教育の連携 寺田正義  
大学のシネマ・イングリッシュについて 寺田正義  
経済におけるグローバリゼーション 佐藤貴史  
グローバリゼーションに対する中国の対応 嶋田陽子  
グローバリゼーションと日本経済 佐藤貴史  
我孫子市の協働を踏まえた市政改革 平 修久  
日本の思想における表現されるものと私秘なるものの関係をめぐって 原田貴士  
脱北者聞き取り調査 小林雅博  
市民活動とまちづくり——宮原駅西口地域の事例 富澤賢治  
宮原駅西口地域のまちづくりマップ 東内勝美  
協働によるまちづくりの手法 富澤賢治  
17世紀イングランドにおける教会統治論 高 萬松

ヘンリー・ジェームズのアイデンティティ 嶋田陽子  
ラインボルド・ニーバーのソーシャルワーク観 高 萬松  
非行臨床研究報告 藤掛・池田  
「9つの色」をめぐる 村山順吉  
海外新刊書紹介・A. リッチュル研究 深井智朗  
研究所ニュース

**Vol.15-1 (48頁)**

巻頭言「有益」か「有害」か——紫外線予報はじまる 中村磐男  
あすの日本を考える 速水 優  
世界史の深層動向から日本の神学を問う 森本あんり  
ルポ：今もなお、ゆれ続ける中越 相川章子  
中国における最新英語教育事情 市川 研  
国際人道法 (International Humanitarian Law) 尹 仁河  
高機能広汎性発達障害 竹渕香織  
歴史軸の中に教育の「今」をさぐる 熊谷芳郎  
小学校英語教育について 東 仁美  
グローバリゼーションと情報 嶋田陽子  
牧会心理研究会報告 猪野正道  
国際金融研究室の設置 眞野輝彦  
『強い円・強い経済』(速水優 著)をめぐる 小林雅博  
総合研究所 News (都市シンポジウム・カウンセリングシンポジウム集計)

**Vol.15-2 (28頁)**

巻頭言「アメリカ瞥見記」 寺田正義  
国民のための祈祷主日 洛雲海  
現代市民社会論のグローバルな地平 佐藤貴史  
EU法における言語問題 佐藤貴史  
Dual Constitutionalism 再考：アメリカ法の視座 松本 周  
非国教主義プロテスタント成立の神学的意図 森島 豊  
高校3年生における英文読解指導 寺田正義  
『聖学院英語教育年報2004』をめぐる・小林雅博

金融緩和政策は有効か 中村準一  
グローバリゼーションとわが国金融システムの変化 小林雅博  
行政のアウトソーシングを考える 平 修久  
グローバリゼーションの文脈における総合的日本研究 柳田洋夫  
新刊書紹介『終末論入門』 西谷幸介  
大学院・総合研究所教員活動報告（2004年度）深井智朗  
研究所 News 日韓中学術セミナー

### Vol.15-3 (36頁)

巻頭言「コンピュータ社会と『バグ』」 標 宣男  
経済のグローバル化 古城佳子  
保の字形について 石津靖大  
グローバリゼーションへの対抗理論 佐藤貴史  
アジアの神学 柳田洋夫  
ピューリタニズムとホップズ 森島 豊  
PPP (Public-Private Partnership)：海外の動向と日本の課題 高端正幸  
国際人道法と国際人権法 松本 周  
21世紀 国際金融の現状と未来 中村準一  
「活動を通して感じた大切な気づき」「身近な自然を知り、親しみ、守る」  
平 修久  
グローバル化とグローバル・ガバナンスをめぐって 柳田洋夫  
対外直接投資からみた日本経済の国際化 中村準一  
グリーンケア・ルーム年報 2004年度 藤掛 明  
聖学院大学大学院・総合研究所教員活動報告（2004年度）山形和美・藤掛 明  
研究所 News (カウンセリングシンポジウム集計)

### Vol.15-4 (36頁)

巻頭言「ドイツの大学を訪ねて」 古屋安雄  
わが国のPFIの実践状況と課題 岩切博史  
「フランスによる欧州連合憲法条約の否決」「欧州憲法条約の検討」 佐藤貴史  
理論言語学の動向 寺田正義  
グローバル（地球域的）公共神学の展望：主体・文化・政治 柳田洋夫

市場統合と社会統合は両立するか 小林雅博

「都市計画マスタープランを起点にしたゆるやかなネットワーク作り」

「地域ねこからまちづくり」 平 修久

ヨーロッパ社会モデル 佐藤貴史

P.T. フォーサイスにおける歴史の神学 柳田洋夫

グローバリゼーションと「構造改革」 柳田洋夫

中国経済の問題点 中村準一

市場化テスト法案 平 修久

聖学院大学大学院・総合研究所教員活動報告(2004年度) 古屋安雄・松谷好明・

高 萬松・森田美千代・菅原啓州・藤原真知子・竹淵香織

総合研究所 News (国際シンポジウム・ポリシーカレッジ公開討論・公共哲学・聖学院フォーラム集計)

#### Vol.15-5 (36頁)

巻頭言「多様性に対する習熟」 大木雅夫

金融市場と情報——市場倫理の観点から 梅津順一

グローバリゼーションとカント 松本 周

G. ブレスウェイトの活動——平和問題を中心に 木村美里

女子聖学院中学1年 英語授業 木村美里

「近代化遺産を活かしたまちづくり・行田の例」「ホテルを通しての見沼田んぼの自然と地域コミュニティの創造」 平 修久

政治的党派性とサプライサイドの福祉政策 柳田洋夫

市場経済と倫理的基礎づけ 小林雅博

英語教育の小学校と中学校の連携 寺田正義

行政アウトソーシングとコスト分析 平 修久

EU競争法の動向——近時の改正を中心として 松本 周

2005年度 教会心理研究会報告 猪野正道

2005年度非行臨床研究会報告 藤掛 明

聖学院大学大学院・総合研究所教員活動報告(2004年度) 有賀 貞・藤原淳賀・

M. サベット・D. サザデン

総合研究所 News (日韓シンポジウム・児童シンポジウム集計)

## (5) 研究報告書・年報の発行

『年報』『研究報告書』などの刊行による研究成果の公開

### 1) 英語教育研究

『聖学院英語教育年報2003』2004年3月20日, A4判, 200頁

『聖学院英語教育年報2004』2005年3月20日, A4判, 157頁

『聖学院英語教育年報2005』2006年3月20日, A4判, 136頁

### 2) 人口減少研究

「人口減少期における自治体行政のあり方に関する調査研究」2004年3月30日, A5判, 61頁

### 3) ヨーロッパ統合の理念と実態研究

『「ヨーロッパ統合の理念と実態」研究報告書』2004年3月30日, A5判, 270頁

### 4) イギリス・アメリカの文化に関する学際的研究

『イギリス・アメリカの文化に関する学際的研究』2005年3月30日, A5判, 135頁

### 5) 〈児童〉における総合人間学研究

『「〈児童〉における総合人間学」研究報告書』2006年3月30日, A5判, 135頁

### Ⅲ ランゲージ・インスティテュート (SLI)

総合研究所に、研究成果の公開として、幼稚園児・小学生・中学生・高校生・大学生および一般社会人を対象にした語学研修機関、ランゲージ・インスティテュート (SLI) が設置されている。大学キャンパス、駒込エリア、栄光ゼミナール大宮校、さいたま新都心産学交流プラザ彩の国8番館、聖学院みどり幼稚園で教室を展開している。2003年4月より新設されたのは、駒込エリアの幼稚園児、小学生、中学生の各クラスと一般向けの児童英語アシスタント養成クラス、イングリッシュ・バイブル・クラス、さいたま新都心の児童英語教授法クラス、またみどり幼稚園の小学生クラスである。SLIは10週間を一期として、4月、9月、1月に各期を開始する。

また、聖学院大学海外研修、推薦入学予定者英語集中講座、提携校交換留学生のための日本語講座、聖学院小学校、女子聖学院・男子聖学院のホームステイ・プログラム、聖学院幼稚園、みどり幼稚園に講師を派遣している。特に、聖学院小学校では、カリキュラム・教材の作成も担当している。

開講したのは以下のクラスである。なお、SLIは2004年度より国際センターに移管されたため2003年度のみ報告となる。

#### (1) 英会話クラス

Let's Talk (初級), More Talk (中級), Total Talk (上級), Travel Talk (旅の英会話・中級程度) の4種のクラス。基本会話からテーマに基づいてディスカッションできる英語力を養成する。

#### (2) TOEIC クラス

企業で重視されている英語検定試験の準備として、テキストを使いreading, grammar, listening, vocabulary の学習をする。

#### (3) TOEFL クラス

英語圏の大学に留学するために必要なTOEFLで、173点 (ペーパー・ベース

500点以上), 大学院213点(ペーパー・ベース550点以上)を獲得できるように reading, grammar, listening, vocabulary の学習をする。

(4) 幼稚園クラス

ゲーム, 歌などのアクティビティを交えながら, 簡単な英語表現, ボキャブラリ自然に身につける。

(5) 小学生クラス

基本的な表現・ボキャブラリーを取り入れながら, 楽しく自然に英語の基礎を身につける。

(6) 中学生クラス

英語の基礎をしっかりとつけるとともに, 自然に英語を身につける。

(7) 高校生クラス

自分の言いたいことが言えるようになる, コミュニケーション重視の英語講座。

(8) 帰国生クラス

英語圏から帰国した小学生・中学生・高校生が, 身につけた英語をブラッシュアップし, より高度な英語力をつけることを目指す。

(9) 児童英語教授法クラス

幼稚園・小学校の先生方が, 英語指導者・子供に, 効果的に楽しく英語を教えられるようになることを目標としている。教科書“My English Book”を使い, 実際に授業で使える英語表現, アクティビティを数多く紹介する。

(10) 児童英語アシスタント養成クラス

児童英語クラスのアシスタントとしての常識を身につける。教科書“My English Land”を使いながら, 児童英語の基礎を学ぶ。

(11) English Bible クラス

英語で聖書を読むクラス

(12) 入学前準備講座〈英語集中講座〉

聖学院大学の推薦入学予定者のために、ネイティブ・スピーカーから集中で英会話とコンピュータの教授をうける講座。

(13) 海外研修事前準備講習

夏期・春期にアメリカ、オーストラリア、イギリスで4週間の語学研修をする学生やホームステイをする学生を対象に、SLI独自のテキストを用い、現地の文化やマナーを学ぶ。

(14) 提携校交換留学生のための日本語講座



SLI受講者数〈一般英語〉2003年

|                        | Class   | Code    | Teacher        | Day   | Time  | 1期 | 2期 | 3期 |
|------------------------|---------|---------|----------------|-------|-------|----|----|----|
| 大学キャンパス<br>Campus      | LET'S   | LET-U01 | Blofeld-Watson | Mon   | 13:00 | 10 | 6  | 5  |
|                        |         | LET-U02 | Kahl           | Thu   | 15:15 | —  | 5  | 5  |
|                        |         | LET-U03 | Kahl           | Sat   | 13:30 | 5  | 9  | 8  |
|                        |         | LET-U04 | Kahl           | Thu   | 10:30 | 8  | 5  | 3  |
|                        |         | LET-U05 | Kahl           | Mon   | 15:00 | —  | 3  | 4  |
|                        |         | LET-U06 | Ashley         | Wed   | 13:00 |    |    | 2  |
|                        | MORE    | MOR-U01 | Kahl           | Mon   | 8:40  | 5  | 6  | 5  |
|                        |         | MOR-U02 | Blofeld-Watson | Mon   | 15:00 | 4  | 3  | 3  |
|                        |         | MOR-U03 | Sotherden      | Thu   | 13:30 | 8  | 4  | 4  |
|                        |         | MOR-U04 | Ashley         | Sat   | 13:30 | 7  | 7  | 6  |
|                        | TOTAL   | TOT-U01 | Sotherden      | Tue   | 17:00 | 4  | 4  | 5  |
|                        |         | TOT-U02 | Ashley         | Wed   | 10:30 | 7  | 7  | 6  |
|                        |         | TOT-U03 | Kahl           | Sat   | 10:20 | 4  | 6  | 4  |
|                        |         | TOT-U04 | Sotherden      | Sat   | 15:10 | 5  | 5  | 4  |
|                        | TRAVEL  | TVL-U01 | Sotherden      | Sat   | 13:30 | 5  | 5  | 5  |
|                        | TOEIC   | TOC-U01 | Kahl           | Sat   | 15:15 | 5  | 4  | 1  |
| TOEFL                  | TOF-U01 | Kahl    | Mon            | 15:00 | —     | —  | —  |    |
|                        | TOF-U02 | Diem    | Fri            | 15:10 | —     | 8  | —  |    |
| 駒込エリア<br>Komagome Area | LET'S   | LET-K01 | Kahl           | Tue   | 11:00 | 7  | 9  | 5  |
|                        |         | LET-K02 | Blofeld-Watson | Thu   | 13:30 | 3  | 4  | 4  |
|                        |         | LET-K03 | Blofeld-Watson | Thu   | 18:00 | 7  | 7  | 7  |
|                        |         | LET-K04 | Kahl           | Wed   | 15:00 | —  | —  | 9  |

|                                      |               |                |                |       |       |            |            |            |
|--------------------------------------|---------------|----------------|----------------|-------|-------|------------|------------|------------|
|                                      | MORE          | MOR-K01        | Sotherden      | Tue   | 10:30 | 4          | 5          | 6          |
|                                      |               | MOR-K02        | Kahl           | Wed   | 10:20 | 9          | 9          | 9          |
|                                      | TOTAL         | TOT-K01        | Kahl           | Tue   | 13:00 | 4          | 4          | 4          |
|                                      |               | TOT-K02        | Kahl           | Wed   | 13:00 | 4          | 2          | 2          |
|                                      | English Bible | ZBT-K01        | Byrd           | Thu   | 13:00 | 5          | 3          | 4          |
| English for Parents                  | EFP-K01       | Fujiwara/Byrd  | Wed            | 10:20 | —     | —          | —          |            |
| 栄光ゼミナール<br><b>Eiko Seminar</b>       | MORE          | MOR-E01        | Sotherden      | Wed   | 10:30 | 9          | 9          | 10         |
|                                      |               | MOR-E02        | Sotherden      | Wed   | 13:30 | 7          | 8          | 6          |
|                                      |               | MOR-E03        | Sotherden      | Sat   | 10:30 | 10         | 10         | 10         |
| さいたま新都心<br><b>Saitama Shintoshin</b> | LET'S         | LET-S01        | Blofeld-Watson | Tue   | 16:00 | 8          | 4          | 3          |
|                                      |               | LET-S02        | Blofeld-Watson | Wed   | 13:00 | 10         | 5          | 2          |
|                                      |               | LET-S03        | Blofeld-Watson | Tue   | 14:00 | —          | 3          | 4          |
|                                      | MORE          | MOR-S01        | Blofeld-Watson | Wed   | 10:30 | 10         | 9          | 8          |
|                                      |               | MOR-S02        | Blofeld-Watson | Sat   | 13:00 | 10         | 7          | 8          |
| TOTAL                                | TOT-S02       | Blofeld-Watson | Sat            | 15:00 | 7     | 7          | 6          |            |
| 一般英会話受講者数 合計(人)                      |               |                |                |       |       | <b>136</b> | <b>181</b> | <b>177</b> |

|                  |                       |           |     |       |               |               |            |
|------------------|-----------------------|-----------|-----|-------|---------------|---------------|------------|
| 講師派遣             | Pearl                 | Sotherden | Mon | 10:30 | 15            | 15            | 15         |
|                  | Recommended students' |           |     |       | <del>15</del> | <del>15</del> | 49         |
|                  | Homestay              |           |     |       | 29            | <del>15</del> | 29         |
|                  | Study Overseas        |           |     |       | 21            | <del>15</del> | 54         |
| 講師派遣での受講者数 合計(人) |                       |           |     |       | <b>65</b>     | <b>15</b>     | <b>147</b> |

注) 一印は中止となったもの。＼印は開講予定がなかったもの。

## IV 聖学院大学出版会

### (1) 目的と理念

総合研究所の機能のひとつである聖学院大学出版会は、東京大学出版会、法政大学出版局など28の大学出版会によって構成される「大学出版部協会」に加盟し、次のような出版活動をしている。

- 1) プロテスタント・キリスト教の精神と文化の伝統を継承する学校として、キリスト教文化、キリスト教教育の発展に寄与する出版活動。
- 2) 学校法人聖学院の諸学校と有機的関係を持った出版活動。
- 3) 「聖学院大学の理念」に基づき、学際的かつ国際的、創造的かつ総合的学問の進展をはかる出版活動。

また、次のような出版物を刊行する。

- ①学校のカリキュラムに即した講義テキスト、特にキリスト教学校の「聖書科」教科書
- ②研究の成果としての学術書
- ③University Extensionの趣旨に基づく学術的啓蒙書
- ④学生・生徒の人生の伴侶となりうるような教養書
- ⑤キリスト教思想・評論などの専門書

### (2) 出版物（発行日順）

2004年2月15日

聖学院大学総合研究所、康 仁徳、小田川興 編『北朝鮮問題をどう解くか』

2004年3月30日

マックス・L・スタックハウス著/深井智朗 監訳『公共神学と経済』

2004年3月26日

郡司厚晃 編著『医療と福祉における市場の役割と限界』

2004年8月27日

倉松 功 著『私学としてのキリスト教大学』

2004年12月20日

チャールズ・C・ブラウン 著/高橋義文訳『ニーバーとその時代』

2005年3月26日

平 修久 著『地域に求められる人口減少対策』

2005年3月31日

Hideo Ohki, Atsuyoshi Fujiwara, David Oki Ahearn, Tomoaki Fukai, Nag  
Woon-Hae, *A Theology of Japan: Origins and Task in the Age of Globalization*,  
A Theology of Japan, Monograph Series 1

2005年4月1日

聖学院キリスト教センター 編『神を仰ぎ人に仕う・21世紀版』第二版

2005年11月30日

古屋安雄, 倉松 功, 近藤勝彦, 阿久戸光晴 編『歴史と神学』

2006年2月10日

A. D. リンゼイ 著 山本俊樹, 大澤麦 訳『キリスト教諸教会とデモクラシー』

2006年2月28日

平山正実 著『人生の危機における人間像』

2006年3月25日

チャールズ・E・メリアム 著, 和田宗春 訳『シカゴ——大都市政治の臨床的  
観察』

2006年3月29日

Atsuyoshi Fujiwara (ed.), *Church and State in Japan since World War II*, A  
Theology of Japan, Monograph Series 2

## V 自治体リーダー養成講座，聖学院ポリシー・カレッジ

### (1) 自治体リーダー養成講座

2003年度 第10周年記念／自治体リーダー養成講座

主題「待ったなし・自治体再構築」

厳しい財政環境と地方分権が始まる中で，市町村，府県のあり方が根本から問われている。それは経営能力の面でも政策能力の面でも説明能力の面でもだ。分権改革を受けて住民は質の高い公共サービスをよりコストが安く提供されることを望んでいる。しかし，1955年前後につくられたいまの市町村体制がその要請に応え得るか。全国的に市町村合併が大きな流れになってきた。そして府県再編，道州制の導入が論議されはじめた。

こうした時代にあって自治体のプロはどうあるべきか，従来型の公務員観ではとても対応できる時代ではない。10周年記念にあたる今回は総合編として「自治体の規模と能力」に着目し，市町村合併，道州制などを中心に21世紀の地方自治のあり方を考える。

期 間：7月23，24，25，30，31日

場 所：聖学院大学4号館会議室

受講料：3万円

参加者：30名

1日目 23日

①開講講演 大木英夫（聖学院理事長）

基調講義 ②講義Ⅰ「市町村合併の課題と展望」森田 朗（東京大学教授）

③講義Ⅱ「自治体を取り巻く政治経済の変化」

小林 良彰（聖学院大学総合研究所客員教授）

2日目 24日

④講義Ⅲ「実践——田無・保谷市合併からみた市町村合併」

末木 達男 (前田無市長)

専門講義 ⑤講義Ⅳ「地方財政と市町村の財政経営」

小西砂千夫 (関西学院大学教授)

3日目 25日

⑦講義Ⅴ「政策ディベートの実践」佐々木信夫 (中央大学教授)

専門演習Ⅰ⑧演習Ⅰ (政策ディベート) 同上

a 住民投票の導入 馬場 健 (聖学院大学専任講師)

b 民間委託のすすめ

4日目 30日

⑨演習別専門講義

a 「小規模町村の再編」間島 正秀 (法政大学教授)

b 「NPMと自治体改革」馬場 健 (聖学院大学専任講師)

c 「合併とまちづくり」平 修久 (聖学院大学教授)

d 「都市制度を考える」土岐 寛 (大東文化大学教授)

e 「府県制度を考える」丸山 康人 (四日市大学教授)

専門演習Ⅱ⑩演習Ⅱ (専門) 同上 a～eの関連テーマによる演習。講師は同上

5日目 31日

⑪講義Ⅵ「求められる自治体像——改革設計」佐々木信夫 (前出)

総括講義 ⑫講義Ⅶ「私の経営理念と改革戦略」星野 信夫 (東京都国分寺市長)

⑬パネルディスカッション「自治体の再構築をめざして」

司 会：佐々木信夫 (聖学院大学客員教授)

討論者：篠田 伸夫 (全国町村議長会事務総長)

：中村 征之 (ジャーナリスト)

：稲葉 尚子 (埼玉県総合政策局改革政策局政策評価担当)

1994年度から開始した「自治体リーダー養成講座」は第10回で終了し、2004年度から、「聖学院ポリシーカレッジ」に再編されることになった。

## (2) 聖学院ポリシーカレッジ

2004年度 主題「新しい“公共”を考える」

2004年度より「自治体リーダー養成講座」を受け継ぎ、新たに、「ポリシーカレッジ」(政策大学院講座)を開設した。

第1回は、「新しい“公共”を考える」を共通テーマとした。

いま、社会では、官から民へ、国から地方へ、統治から協治への時代潮流を受け、新たな「公共」のあり方が問われている。今後の政治、行政、企業、NPO、ボランティア、住民のあり方、及びそれぞれの関係はどうあるべきか、毎回、一流の専門家を招き、講義と演習により徹底研究をした。

1. 場 所    さいたま新都心 産学交流プラザ (彩の国8番館)
2. 期 間    04年10月～12月の隔週土曜日、午後3時間 (全5回)
3. 受講生    10名 (大学院生のぞく)
4. 受講料    3万円
5. 内容、講師 (時間帯は毎回、pm12:50～16:00 (3時限, 4時限))
  - ①10月9日(土)〈官から民へ、国から地方へ——なぜ、公共が問われるか〉  
佐々木信夫 (中央大教授, 聖学院大院客員教授, 法博)
  - ②10月23日(土)〈ガバナンス論をめぐって——自治体, NPO, ボランティア〉  
中邨 章 (明治大教授, 聖学院大院客員教授, 政博)
  - ③11月13日(土)〈福祉をめぐる公共概念——NPO, ボランティアの実際〉  
渋川 智明 (毎日新聞編集委員)
  - ④11月27日(土)〈公共経済における「公共」と財政のあり方をめぐって〉  
横山 彰 (中央大総合政策学部教授, 経博)
  - ⑤12月11日(土)〈協働型まちづくりとは何か——市民と行政の新しい関係〉  
平 修久 (聖学院大教授, 工博)

## 2005年度 主題「行政改革・手法の最前線」

新しい公共のあり方が問われる中で、急速に進む行政のアウトソーシング化の動きを研究するため、本年度のポリシーカレッジ（政策大学院講座）では「行政改革・手法の最前線」を共通テーマにした。大きくはNPMの流れを踏まえ「民間にできることは民間へ」、「地方にできることは地方へ」の考え方に立ち、新しい公共を実現する自治体経営のあり方やNPMとアウトソーシングの関わり、行政サービスの民間委託、官民競争入札などの市場化テスト、指定管理者制度、さらに官民競争・協働に関わるPPP、PFIなど新たな行政手法について、各分野の最前線で活躍する一流の学者、専門家を講師として招き、講義と演習、パネルディスカッションなど多様な組み合わせにより、理論と実践を学んだ。

1. 場 所 さいたま新都心 産学交流プラザ（彩の国8番館）
2. 期 間 2005年10月～12月の隔週土曜日、午後3時間（全6回）
3. 受講生 11名（大学院生のぞく）
4. 受講料 3万円
5. 内容、講師（時間帯は毎回、pm12:50～16:00（3時限、4時限））
  - ①10月1日（土）佐々木信夫（聖学院大学大学院客員教授，中央大学教授）  
開講式  
講義Ⅰ「<新しい公共>を実現する自治体経営」  
演習Ⅰ「事例研究自治体経営の改革実践」
  - ②10月15日（土）宮脇 淳（北海道大学公共政策大学院長）  
講義Ⅱ「ニューパブリックマネジメントの意義とアウトソーシング」  
演習Ⅱ「事例研究——NPMの具体化例をめぐって」
  - ③11月5日（土）小松 史郎（（株）三菱総合研究所地域経営研究センター・研究部長）  
講義Ⅲ「指定管理者制度の意義と実践」  
演習Ⅲ「事例研究——指定管理者の実際」
  - ④11月19日（土）川村 雅人（（株）三菱総合研究所地域経営研究センター・チーフプランナー）  
講義Ⅳ「市場化テスト，PFI方式の導入」



演習Ⅳ「事例研究——市場化テスト，PFIの実際」

⑤ 12月3日(土) 平 修久(聖学院大学教授)

講義Ⅴ「まちづくりとPPP」

演習Ⅴ「事例研究——PPPの実際」

⑥ 12月17日(土) パネリスト1：福嶋 浩彦(千葉県我孫子市長)

同 2：北谷 孝和(経済産業省新規産業室長)

同 3：光多 長温(鳥取大学地域学部教授)

コーディネータ：佐々木信夫(前掲)

総括シンポジウム「行政のアウトソーシング——官と民，住民との協働」